

可児市子どもの読書活動推進計画

(第5次) (案)

子どもの発達段階に応じた
読書環境の充実をめざすまち 可児
～ 笑顔と可能性を育むために ～

令和7年●月

可児市

目次

1. 計画策定の背景	
1-1 国・県の動向	1
1-2 可児市の状況	2
2. 第4次計画における成果と課題	
2-1 家庭における子どもの読書活動の推進	3
2-2 地域における子どもの読書活動の推進	4
2-3 図書館における子どもの読書活動の推進	5
2-4 学校における子どもの読書活動の推進	7
2-5 幼稚園・保育園における子どもの読書活動の推進	8
3. 第5次計画の考え方	
3-1 めぜす子どもたちの姿	9
3-2 目標	9
3-3 基本方針	10
3-4 計画推進の方策	11
3-5 対象	11
3-6 期間	11
3-7 指標	11
3-8 計画の推進と評価	11
4. 子どもの読書活動の推進のための方策	
4-1 家庭における子どもの読書活動の推進	12
4-2 地域における子どもの読書活動の推進	14
4-3 幼稚園・保育園等における子どもの読書活動の推進	15
4-4 学校における子どもの読書活動の推進	16
4-5 図書館における子どもの読書活動の推進	18
5. 用語集	22
6. 資料編	
・可児市子どもの読書活動推進計画（第4次改訂版）	
令和2年度～令和5年度 取組実績一覧	28
・可児市子どもの読書アンケート調査（市内小学校・中学校児童生徒）	
令和2年度～令和5年度 結果報告書	33
・可児市子どもの読書活動推進計画に関する実績アンケート調査まとめ	
幼稚園・保育園等	43
公立小学校・公立中学校	46
県立高等学校	47
・可児市子どもの読書活動推進計画（第5次）策定の経過	48
・令和6年度 可児市子どもの読書活動推進委員名簿	49

本計画の文中において、『*』印がついている用語は、巻末に説明をつけています。
(同じ用語が複数回出てくる場合は、初出のものだけに印をつけています。)

1. 計画策定の背景

1-1 国・県の動向

国は、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を積極的に推進することを基本理念として、平成13年に制定した「子どもの読書活動の推進に関する法律（以下「推進法」という。）に基づき、平成14年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、その後、概ね5年毎に計画を改定し、令和5年に第5次計画を策定。家庭、地域、学校、幼稚園・保育園等が連携・協力し、子どもの読書活動を継続的に推進しています。

<第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の基本方針>

1. 不読率の低減
2. 多様な子どもたちの読書機会の確保
3. デジタル社会に対応した読書環境の整備
4. 子どもの視点に立った読書活動の推進

また、障がいの有無にかかわらず、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向け、令和元年に制定された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」に基づき、令和2年に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」が策定されるなど、読書に関する環境の整備が進められています。

岐阜県では、平成16年3月に「岐阜県子どもの読書活動推進計画」を策定し、以後5年毎に計画を改定しながら、令和2年3月に第4次計画が策定され、「生涯にわたって読書を楽しみ、読書から学ぶ力を身に付ける子どもを目指した、豊かな心を育む読書活動の推進」を目標に掲げ、子どもの読書活動に取り組んでいます。

また、令和6年度が第4次計画の最終年度に当たるため、令和7年度からの第5次計画が策定されます。

1-2 可児市の状況

本市では、推進法第9条第2項の規定に基づき、平成18年3月「可児市子どもの読書活動推進計画」を策定し、その後、平成23年に「第2次計画」、平成28年に「第3次計画」、令和2年に「第4次計画」を策定し、家庭、地域、図書館、学校、幼稚園・保育園等で様々な取組を行い、市内の子どもたちの読書推進を図ってきました。

第4次計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やデジタル化の推進等により、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、子どもの読書活動にも影響を与えていると思われます。

また、市が行う公民連携事業により、令和5年11月に本市3館目の分館となるカニミライブ図書館を開館させたこともあり、第4次計画の終期を1年延伸した第4次計画改訂版を令和5年10月に策定しました。

加えて、計画の一環である図書館の除籍候補の絵本や紙芝居を活用し、小学校の『キッズクラブ*』や幼稚園・保育園等に定期的に配送貸出をする『気軽に使える絵本パック詰めサービス*』といった活動などが、子どもの読書活動の推進に寄与したと認められ、「令和6年度子供の読書活動優秀実践図書館」として、平成16年度に続く2度目の文部科学大臣表彰を受賞しました。

このたび、第4次計画改訂版が令和6年度をもって満了するため、これまでの成果と課題を整理し、国や県の計画内容を踏まえ、本市の各関連計画や施策と整合性を図り、子どもの読書活動を総合的・計画的に推進するため、「可児市子どもの読書活動推進計画（第5次）」を策定します。

2. 第4次計画における成果と課題

2-1 家庭における子どもの読書活動の推進

主な成果と状況

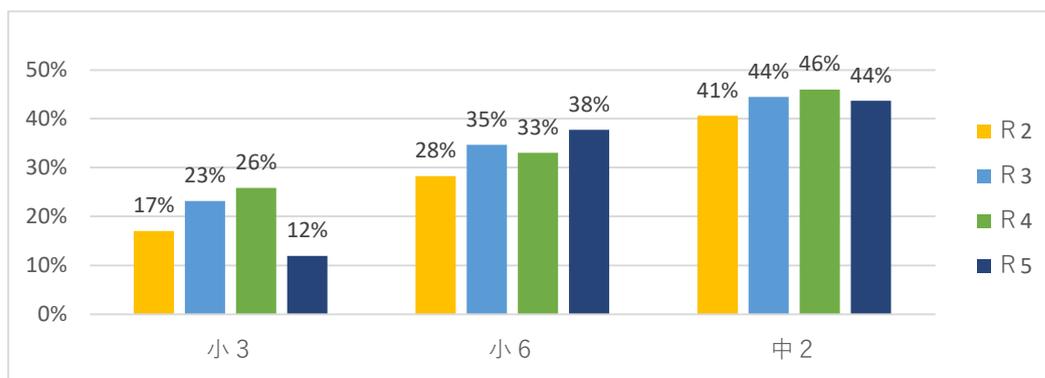
- ◆乳幼児学級等への司書派遣は、令和元年末から流行した新型コロナウイルス感染症の影響により計画前半は十分な事業実施が行えませんでしたでしたが、派遣先において図書館司書が読み聞かせを行うとともに、保護者に対し読み聞かせの重要性を啓発しました。

【乳幼児学級等への司書派遣回数】

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
2回	11回	14回	20回

- ◆『赤ちゃんと絵本事業*』は、コロナ禍で資料配布や事業説明のみ、といった時期もありましたが、健診時に継続して乳児を持つ保護者に読書への関心を持たせる活動ができました。
- ◆各種情報発信については、従来のホームページや『すぐメールかに*』に加え、コロナ禍ならではの手法として、YouTubeでの読み聞かせを発信しました。
- ◆『子どもの読書アンケート*』によると、学年が上がるに従い家で読書をしなくなる傾向にあります。

【家で本を読まなかった子どもの割合（「子どもの読書アンケート」より）】



【本を読まない理由（割合上位から）】

- 小3：読む時間がない、読むのが面倒だから
- 小6：読みたいと思う本がない、読む時間がない
- 中2：読む時間がない、読むのが面倒だから

学年が上がるに従い読まなかった子どもが増えているのは、学校の授業以外にクラブ活動や塾等があり、余暇の時間がないことも影響しています。また、スマートフォンの普及やそれを活用したSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等のコミュニケーションツールの多様化などが、大きな影響を与えていると考えられます。

課 題

- 子どもに対しては本の楽しさを体感してもらう場の提供が必要です。合わせて、保護者に対しては、読書の必要性を啓発する必要があります。
- 家庭での読書活動が『うちどく（家読）10通帳*』の活用と繋がる事業を進める必要があります。
- 本を読まない子どもへの対応としては、家庭での対応だけではなく、地域や図書館、学校、幼稚園・保育園等が相互連携し、取り組んでいく必要があります。

2-2 地域における子どもの読書活動の推進

主な成果と状況

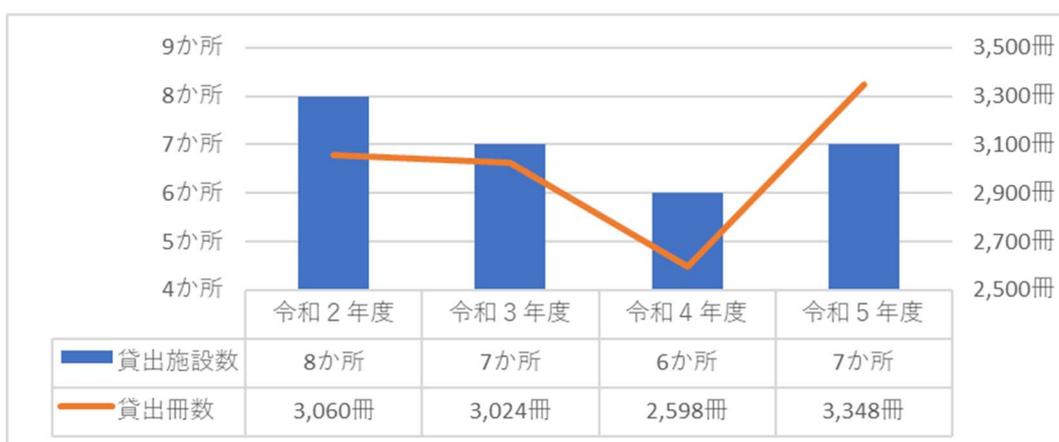
- ◆年に1回、公共施設・団体向けに『リユース本*』の配布を行い、児童センター、地区センター、「キッズクラブ」などにおける図書コーナーの充実を図りました。

【公共施設・団体向け「リユース本」事業実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
児童センター	22冊	3冊	0冊	50冊
地区センター	215冊	29冊	189冊	178冊
キッズクラブ	291冊	261冊	261冊	193冊
他	182冊	113冊	220冊	184冊
計	710冊	406冊	670冊	605冊

- ◆保健センター、『子育てサロン*』、『絆（きつずな）る〜む*』、『地域子育て支援センター*』、児童センター、児童館などの各種団体・施設において、ボランティア等による読み聞かせが行われました。
- ◆図書館主催の読み聞かせ養成講座は、コロナ禍で中断していましたが、令和6年度より再開しました。
- ◆各施設において、図書館の利用案内を紹介し利用者拡大を図りました。また、図書館においても、各種団体・施設等が発行する子育てに関する案内を配置・展示し、利用者に啓発しました。
- ◆「気軽に使える絵本パック詰めサービス」は好評で、「キッズクラブ」に配達しました。

【地域における「気軽に使える絵本パック詰めサービス」利用実績】



課題

- 「リユース本」を活用してもらおう対象施設の拡充を図り、多くの施設で、児童書の充実を図る必要があります。
- より良い読み聞かせ環境を充実させるため、ボランティアと一緒に協議する必要があります。
- 地域における「気軽に使える絵本パック詰めサービス」の利用が「キッズクラブ」のみだったため、他の施設への拡大を図る必要があります。

2-3 図書館における子どもの読書活動の推進

主な成果と状況

- ◆カニミライブ図書館の開館により、子ども向けの蔵書数が増加するとともに、親子で本を通じたふれあいができる場の提供ができました。
- ◆新型コロナウイルスの感染状況により図書館によるイベントを中止・縮小する時期もありましたが、可能な限り感染防止対策を講じて『図書館探検ゲーム*』、「スタンプラリー」等各種イベントを開催しました。

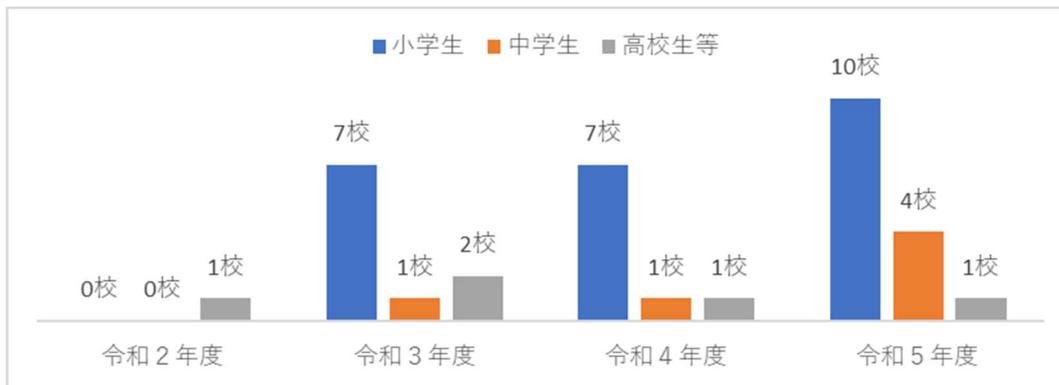
【「図書館探検ゲーム」の参加者数】※年度により、開催期間・開催内容が異なります。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
参加人数	264人	207人	446人	713人

- ◆毎月、幼児及び小学生向けに2種類の『かにっ子だより*』と、年4回、乳児の保護者向けに『ちびっこかにっ子だより*』を発行し、行事やおすすめ本の紹介をしました。

- ◆図書館情報を、ホームページや「すぐメールかに」で発信・啓発するとともに、新たに開館したカニミライブ図書館ではInstagramでも情報を発信しました。
- ◆毎年、小学生の施設見学や中学生の職場体験、高校生等のインターンシップ受入れを行いました。

【小学生の施設見学、中学生の職場体験、高校生等のインターンシップ受入れ件数】



- ◆令和3年に『りんごの棚*』を設置し、障がい児やその保護者に役立つ図書を提供しました。
- ◆『バック詰めサービス*』及び「気軽に使える絵本バック詰めサービス」は、団体からの需要が好調で実績が伸びているため、障がい児を受け入れる事業所にもサービスの提供を検討しています。
- ◆令和6年度の『かにかっ子タイム*』において、読み聞かせの研修を受けた岐阜医療科学大学生による絵本の読み聞かせを実施しました。
- ◆毎年、指定する小学校4校及び中学校3校の小学3年生・6年生及び中学2年生を対象に「子どもの読書アンケート」を実施しています。なお、令和5年度より電子回答を開始しました。

課題

- 子どもたちの図書館利用につなげるため、新たなイベントを企画していく必要があります。
- 情報発信の方法については、多種多様な媒体がある中で、より効果のある発信媒体並びに発信方法を採用していく必要があります。
- 「かにかっ子タイム」、『ちびっこかにかっ子タイム*』については、利用者へのPRをさらに行う必要があります。
- 高齢化によりボランティアの数が減少しているため、次世代の育成が必要です。
- 障がい児・外国籍の子ども用の本の選書について、幅広い知識と市内の対象者の状況を良く把握しておく必要があります。
- 電子書籍については、「子どもの読書アンケート」でも、「利用したい」、「興味がある」と回答している子が約9割いるため、導入に向けて計画的に進めていく必要があります。
- カニミライブ図書館の特徴を生かし、子どもたちに本と親しんでもらう企画・催事を行う必要があります。
- 各関係機関との連携については、図書館が主体となって協議の場の設定や連携・協力体制を構築する必要があります。

2-4 学校における子どもの読書活動の推進

主な成果と状況

- ◆小中学校において、図書館の資料を使った『調べ学習*』や、関連本を紹介して『並行読書*』を勧めました。また、年齢に応じた特設コーナーの設置やおすすめ本の紹介を行いました。
- ◆図書館の『団体貸出*』や「バック詰めサービス」を利用し、授業内容の充実を図りました。

【学校の「バック詰めサービス」利用実績】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受付件数	15件	6件	11件	11件
貸出冊数	417冊	230冊	359冊	385冊

- ◆ほぼすべての小中学校において『朝読書*』を実施しました。
- ◆小学校においては、教諭、保護者、ボランティアによる読み聞かせが行われました。合わせて、一部の学校で保護者に対して子どもの読書活動に対する啓発が行われました。
- ◆ほぼすべての小中学校で、『図書館祭り*』などの行事がそれぞれの時期に創意工夫された内容で催され、読書に親しむ活動が行われました。(例：ビンゴ、おすすめ本紹介、パズルなど。)
- ◆ほぼすべての小中学校で、学級文庫が設置されており、それぞれの学校による運用が図られました。
- ◆学校図書館担当教諭と学校司書との連携・協力のもと、各種読書活動が推進されました。

【令和5年度 市内公立小・中学校の学校図書館の利用状況】

	蔵書冊数	貸出人数	貸出冊数
小学校	154,024冊	338,024人	356,505冊
中学校	78,072冊	26,329人	28,688冊

課題

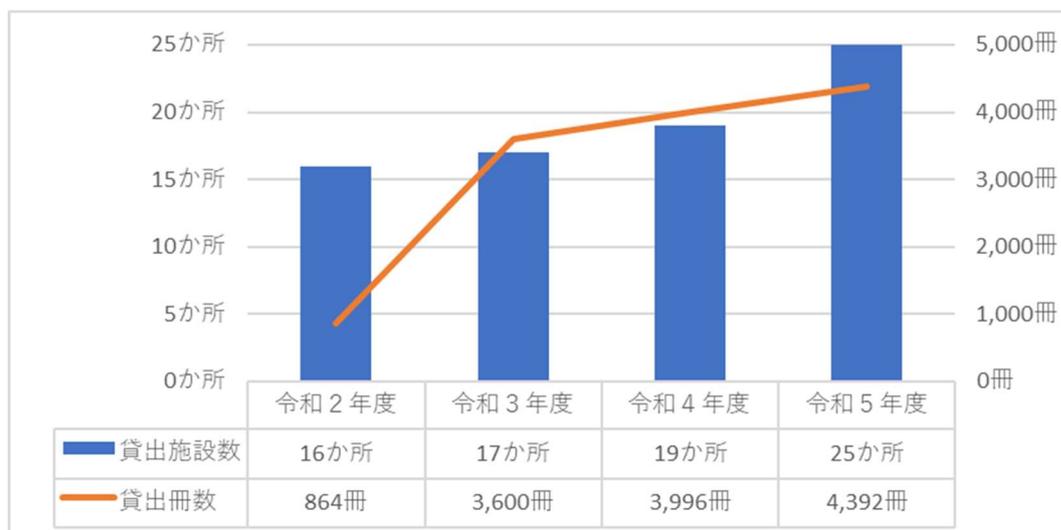
- 「調べ学習」を始めとする各種学校事業に関連する書籍を確保するため、図書館と連携を密にし、図書館の「団体貸出」等のサービスを活用する体制づくりが必要です。
- 学級文庫の充実のため、図書館の「リユース本」を活用していく必要があります。
- 小学校における読み聞かせがさらに充実するように、教諭、保護者、ボランティアの技術向上を図る必要があります。
- 保護者に対して、子どもの読書活動に対する啓発をする必要があります。
- 学校図書館担当教諭、学校司書、図書館司書が連携し、お互いが実施する事業内容を共有し、協力し合う体制を構築する必要があります。

2-5 幼稚園・保育園における子どもの読書活動の推進

主な成果と状況

- ◆ほとんどの幼稚園・保育園等で、絵本や紙芝居を定期的に購入すると共に、図書館が行う「団体貸出」や「気軽に使える絵本パック詰めサービス」を活用し、本の充実を図りました。

【幼稚園・保育園等の「気軽に使える絵本パック詰めサービス」利用状況】



- ◆どの幼稚園・保育園等でも、ほぼ毎日、創意工夫をしていろいろな時間・場面を利用し、読み聞かせを実施しました。
- ◆約半数の幼稚園・保育園等で、子どもたちが好きな絵本を選んで家庭に持ち帰り、親子で絵本に親しむ時間を設けました。

課題

- 私立の保育園等（『小規模保育園*』、『企業主導型保育園*』を含む。）の図書の実態のため、図書館の「団体貸出」、「パック詰めサービス」、「リユース本」の活用等を促進していく必要があります。
- 保育士がより良い読み聞かせの方法を学ぶ機会を設ける必要があります。

3. 第5次計画の考え方

3-1 めざす子どもたちの姿

本市においては、令和5年6月に子育ての基本理念である「『マイナス10カ月*』から つなぐまなぶ かかわる 子育て」のもとに可児市教育大綱が改定され、示された4つの目標に向かって「笑顔の“もと”」を育む教育が進められています。

<4つの目標>

1. 豊かな心を育みます
2. 共に生きるためのルールを守る意識を高めます
3. 夢に向かってチャレンジできるたくましい力を養います
4. ふるさとを愛し、社会に進んで貢献できる人を育てます

目標に掲げた子どもたちの資質・能力を育む上で、読解力や創造力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠であり、読書を通じて、多くの知識を得たり、多様な文化への理解を深めることができます。そして読書を進めるうちに、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる探求心や真理を求める態度が培われていきます。

また、読むこと自体の楽しさ、それによる充実感、満足感を得ることが重要で、子どもの頃の楽しかった体験は、生涯にわたる学習意欲やウェルビーイング（Well-being）につながるとともに、将来、その体験を子どもたちと共有していきたいという動機となり、世代を超えた読書活動の推進の循環が形成されることが期待されます。

このようなことから、子どもたちが読書の恩恵を受けられるよう、社会全体で子どもの読書活動を推進していく必要があります。

3-2 目標

可児市は子どもの読書活動を推進するため、次の目標を掲げます。

子どもの発達段階に応じた読書環境の充実をめざすまち 可児

～ 笑顔と可能性を育むために ～

3-3 基本方針

第4次計画における成果と課題を踏まえ、3-2で掲げた目標を達成するために、次の3つの分野の環境づくりを基本方針として定め、取組を進めていきます。また、取組を進めるにあたり、子どもの読書活動の重要性について、多くの子どもや関係者が知ることができるよう各種情報発信と啓発を行います。

(1) 家庭、地域、幼稚園・保育園等、学校、図書館における子どもの読書活動の推進

- ・子どもが育つ各場面において読書に親しむ環境づくりを推進します。
- ・各場面における役割を認識し、子どもの読書活動を効果的に進めます。

(2) 子どもの視点に立ち子どもが自主的な読書活動を行える場の充実

- ・子どもが発達段階に応じた読書習慣を身に着け、自主的な読書活動が行えるようにします。
- ・子どもたちが主体的に読書活動を行えるよう子どもたちの意見を取組に反映していきます。
- ・多様な子どもたちに対して読書機会を確保していきます。

(3) 子どもの読書活動の啓発と推進体制の強化

- ・読書を習慣にする大切さや楽しさを、子どもや大人に対して啓発していきます。
- ・子どもの読書活動を応援するボランティアを増やす取組を行います。
- ・関係機関の連携・協力により、横断的な取組ができるよう体制の強化を図ります。

3-4 計画推進の方策

基本方針に基づき具体的に計画を推進していくうえで、次の5つを取組の方策として示します。

- (1) 家庭における子どもの読書活動の推進
- (2) 地域における子どもの読書活動の推進
- (3) 幼稚園・保育園等における子どもの読書活動の推進
- (4) 学校における子どもの読書活動の推進
- (5) 図書館における子どもの読書活動の推進

3-5 対象

「マイナス10カ月」～高校生（概ね18歳）

3-6 期間

令和7年度（2025年度）～令和11年度（2029年度）の5年間

3-7 指標

取組の評価をするため、指標を挙げ現状値と5年後の目標値を定めます。

3-8 計画の推進と評価

本計画の推進にあたっては、目標となる指標の達成状況及び具体的な取組の進捗状況について、毎年度「子どもの読書アンケート」並びに実績調査等を実施し、結果をもとに、必要に応じて事業内容及び手法などの改善を図ります。

4. 子どもの読書活動の推進のための方策

4-1 家庭における子どもの読書活動の推進

家庭は、子どもが本と出会い、本の楽しみを知るための大変重要な役割を担っています。

そのためには、家庭において、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、工夫して子どもが読書に親しむきっかけを作ることが望まれます。

また、保護者が読書に親しみ、読書を通して家族で感じたことや考えたことを話し合うといった家庭での読書活動の取組をめざします。

	取 組	内 容
1	「マイナス10カ月」から子育て家庭への読書機会の提供と啓発 (妊娠期)	妊娠期におけるパパ・ママに対して、保健センターでの『マタニティ教室*』、『パパママ教室*』を通じて「子育てガイドブック」(健康増進課)や「これからパパ・ママになるあなたへのおすすめ本」(図書館)といった利用案内チラシを配布するなど、本を通じて赤ちゃんを迎える心構えを啓発していきます。
2	親子がふれあう読書機会の提供と啓発 (乳幼児期)	①乳児と保護者に対して、保健センターで行われる乳児健診の際に、図書館職員とブックサポーターによる「赤ちゃん絵本事業」を実施し、絵本の紹介や貸出を行います。 ②行政が行う子育て講座「乳幼児学級」、「ベビークラス」、「家庭教育学級」などで、実際に読み聞かせを行うとともに、家庭でも絵本の読み聞かせが重要であることを保護者に啓発していきます。 ③乳幼児期においては、保護者に対して紙の絵本での読み聞かせを推奨していきます。 ④乳幼児期の子どもを持つ保護者に対して、図書館情報誌「ちびっかにかっこ子だより」や子育てに関する情報誌などにより読書推進の啓発をしていきます。 ⑤将来、自主的に本が読める子に育てるため、乳幼児期から絵本に興味を持ち、本が好きになる取組を進めます。

	取 組	内 容
3	『うちどく（家読）10 運動*』等の推進 （小中高等学校）	<p>①家庭での読書を推進するため「うちどく（家読）10 運動」（家族で本を読み、感想を言い合う活動）を進めます。</p> <p>②『うちどく（家読）10 通帳*』を「うちどく 10 推薦図書リスト（中学生向け）」と共に毎年新中学 1 年生全員に配布します。また、通帳を図書館にも配置し、広く一般家庭で活用してもらうとともに、運動について広く啓発していきます。</p> <p>③家庭で自主的に本が読めるよう、子どもに本の楽しさを感じてもらい、本好きな子になるような環境づくりを行います。</p> <p>併せて、子どもの保護者にも読書の必要性を啓発していきます。</p>

指標名	現状値 （令和 5 年度）	目標値 （令和 11 年度）
「赤ちゃん絵本事業」での貸出人数	184 人	240 人
「うちどく（家読）10 通帳」記入 50 冊達成件数	14 件	50 件
「子どもの読書アンケート」での家で本を読まなかった子の割合（不読率）	小学生 27.5% 中学生 43.6%	小学生 10% 中学生 40%
「子どもの読書アンケート」での家で読んだ本の冊数（一人当たりの平均）	小学生 10.6 冊 中学生 3.8 冊	小学生 15 冊 中学生 8 冊

4-2 地域における子どもの読書活動の推進

地域では、子どもたちへの読書活動を通じて、子どもが本の価値を見出し、本を大切に扱うことや本を読んでくれる人との心の交流を育むなど子どもたちの社会性を培うことができます。

こうした効果を最大限発揮できるよう市内の各施設などにおいてボランティアを中心とした地域の多様な主体が連携・協力し、地域全体で子どもの読書活動の推進に取り組んでいきます。

	取組	内容
1	地域の各施設による児童書の充実	<p>①図書コーナーのある施設（児童センター、児童館、『子育て健康プラザ マーノ*』、「キッズクラブ」、地区センター等）に対し、図書館の「リユース本」を活用してもらうなど、施設の児童書の充実を図ります。</p> <p>②子育て事業を行う施設や団体に対し、図書館が行う「団体貸出」、「気軽に使える絵本パック詰めサービス」を周知し、有効利用してもらうことにより、施設の児童書の充実を図ります。（特に「キッズクラブ」、『日中一時支援*』事業所、『放課後等デイサービス*』事業所に PR していきます。）</p>
2	地域のボランティアによる読み聞かせ等の実施とボランティアの充実	<p>①地域のボランティアの協力により読み聞かせや読書を楽しめる機会を増やしていきます。</p> <p>②地域で読み聞かせを実施するボランティアの人員の拡充並びに読み聞かせの更なる知識と技術向上のため、図書館が実施する「読み聞かせ養成講座」への参加を促します。</p> <p>③地域で読み聞かせを実施するボランティアの意見を聞く機会を設け、協力・支援を行います。</p>
3	地域で行われる子育て事業での読書推進	「子育てサロン」、「絆（きつずな）る～む」、「地域子育て支援センター」、児童センター、児童館などにおいて、ボランティアなどによる読み聞かせを実施・支援していきます。
4	地域で行われるイベントでの読書推進	地域で行われる各種イベント・催事の際に、読み聞かせや読書活動の啓発などを行います（例えば、子ども食堂における読み聞かせ、地区センターまつりでのお話し会）。

指標名	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
地域の各施設における「気軽に使える絵本パック詰めサービス」利用施設数	7施設	10施設
地域の各施設における「気軽に使える絵本パック詰めサービス」貸出冊数	3,348冊	4,320冊

4-3 幼稚園・保育園等における子どもの読書活動の推進

幼稚園・保育園等は、子どもが初めて集団生活を行う場であり、そこでは日常生活を通して本の楽しさを知ることができるよう、積極的に絵本や物語に親しむ取組を行う役割を担っています。

幼稚園・保育園等において、読み聞かせ等を推進するとともに、保護者に対して家庭での読書活動の意義を啓発し、子どもが多くの本に安心して触れることができる環境を整備していきます。

	取組	内容
1	幼稚園・保育園等の本などの充実と本に親しみやすい環境整備	①幼稚園・保育園等の規模により予算やスペースの問題はありますが、可能な範囲で選書に配慮し絵本や紙芝居などを購入するなどして蔵書を充実します。 ②図書館が実施する「団体貸出」や「気軽に使える絵本パック詰めサービス」、「大型絵本の貸出」などを利用し、子どもたちが本に親しみやすい環境を整えます。 ③図書館からの「リユース本」や公民連携事業による事業者からの廃棄本の寄附なども活用します。
2	読み聞かせやお話の時間の充実	①日常的に職員が読み聞かせやお話をする時間を設けるとともに、幼稚園・保育園等の創意工夫により、休み時間やお迎えを待つといった隙間時間に読み聞かせを実施し、子どもたちが絵本に親しむ機会を提供します。 ②保護者や地域のボランティアの協力により読み聞かせを実施する時間を設けます。 ③図書館が実施する絵本の選び方や、読み聞かせ技法の研修などにより、職員の読み聞かせ技術の向上を図ります。
3	親子で本に親しむ機会づくりの推進	①幼稚園・保育園等の本を貸し出したり、図書館や地域の図書コーナーの情報を伝えるなど、家庭で親子が本と親しめるような機会を提供します。 ②おすすめの絵本の紹介や読み聞かせの重要性についての情報を保護者に提供・啓発し、家庭での読書活動を支援します。

指標名	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
幼稚園・保育園等における「気軽に使える絵本パック詰めサービス」利用施設数	25施設	30施設
幼稚園・保育園等における「気軽に使える絵本パック詰めサービス」貸出冊数	4,392冊	5,000冊

4-4 学校における子どもの読書活動の推進

学校は、子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、かけがえのない大きな役割を担っています。

各学校において、必要な読書環境を整え、子どもの自主的・自発的な読書活動を充実させるため、教諭や学校司書等が連携し各種の効果的・効率的な取組を行ってまいります。

	取組	内容
1	読書習慣の確立と読書指導の充実	<p>①授業に関連した図書を紹介することによって、「調べ学習」の習慣を身につけさせます。また、「並行読書」を勧めて本とふれあう機会を増やします。</p> <p>②子どもの発達段階に応じた図書の選定を行い、必読書や選定図書の紹介をし、学校図書館内に特設コーナーを設けます。</p> <p>③自主的な読書習慣を身に付けさせるため、楽しみながら読書できるような工夫をするとともに、学校図書館の本をたくさん読んでもらう取組をします。</p> <p>④図書館が実施する「子どもの読書アンケート」に協力し、子どもの読書活動の状況を踏まえ読書推進を行います。</p>
2	学校図書館の図書の充実	<p>①子どもたちのニーズや学習に関する適切な本を選書・購入するとともに、計画的に図書の廃棄と更新を行ないながら学校図書館の図書の充実を図ります。</p> <p>②学校図書館の蔵書については統一システムでデータベース化されていることから、今後は市内の公立学校図書館同士で本の相互貸借等ができる仕組みを検討していきます。</p> <p>③図書館が実施する「団体貸出」、「パック詰めサービス」、「リユース本」を活用し、学校図書館としての機能を充実させます。</p>
3	全校一斉の読書活動の実施	<p>全校一斉に読書をする機会を意図的に設けることにより、子どもたちが読書に親しみ、読書を楽しむ習慣の形成を図ってまいります。</p> <p>また、各学校で工夫を凝らし、子どもたちの興味が増す方法で実施します。</p>
4	保護者やボランティアの協力による読書推進	<p>①学校においては、教諭、保護者、ボランティアによる読み聞かせを実施します。また必要に応じて、図書館が実施する「読み聞かせ養成講座」を利用し、技術向上を図ります。</p> <p>②「うちどく（家読）10運動」を推奨するとともに、保護者への読書活動の啓発を進めます。</p>

	取 組	内 容
5	読書に関する行事の実施	各学校で「図書館祭り」や『読書週間*』など各種行事を実施します。その際、図書委員の子どもたちなどが主体的に企画した内容で、読書の楽しさや本の良さを伝えます（例えば、図書委員による読み聞かせ、おすすめ本の紹介、読書分類ビンゴゲーム、読書クイズ等）。
6	学級文庫や特設文庫などの設置と充実	各学級・学年で文庫を設置し、身近に本とふれあえる環境づくりを行います。また定期的に本を巡回させるなど、多くの本との出会いの機会を作ります。
7	学校司書による読書環境づくりの推進	<p>①学校図書館担当教諭と学校司書が協力し合い読書推進のための取組を進めます。</p> <p>②教諭と協力し、学校図書館や図書館の本を利用して、授業で活用したり自主的に学んだりできるよう、発達段階に応じた適切な図書資料の活用の仕方を指導します。</p> <p>③学校司書の知識・技術の向上のため、定期的に図書館司書との情報交換・共有を行います。</p>

指標名	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
学校図書館の貸出人数	小学校 338,024 人 中学校 26,329 人	小学校 338,100 人 中学校 26,400 人
学校図書館の貸出冊数	小学校 356,505 冊 中学校 28,688 冊	小学校 356,600 冊 中学校 28,700 冊
学校における「バック詰めサービス」利用件数と冊数	11 件、385 冊	11 件、400 冊

※今後、児童・生徒数の減少が見込まれるため、目標値はほぼ横ばいの数値となっています。

4-5 図書館における子どもの読書活動の推進

図書館は、子どもの読書推進に関連し様々なサービスを提供する役割を担っています。

図書館は、豊富な蔵書の中から子どもが自由に読みたい本を選び、読書の楽しさを知ることのできる場所であり、保護者にとっても子どもの本を選んだり、育児についての情報入手や子どもの読書に関する相談をしたりすることができる場所です。

図書館の本を読んで、読書の楽しさを知り、多くの本から豊かな心を育んでもらうために、図書の実を図り、地域、幼稚園・保育園及び学校等と連携・協力し、読書推進を図ります。

	取組	内容
1	子ども向けの良書の充実と蔵書情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもやその保護者、子育て事業の関係者などから選書に対する要望を積極的に聞きながら、図書館の蔵書を充実させていきます。 ②市の郷土資料や子どもに適した良書を収集・保存するとともに、読み聞かせに適した大型絵本や紙芝居についても取り揃えていきます。 ③図書館内（絵本コーナー、児童コーナー、『ヤングアダルト*』コーナー）の配架や配置を工夫し、子どもたちが興味をもって本を選べるようにします。 ④子ども向けの『パスファインダー*』については、定期的に更新するなど整備し、逐次子どもたちに提供していきます。 ⑤子どもの発達段階に応じたブックリスト（おすすめ本リスト）を作成し、幼稚園・保育園、学校等に案内していきます。
2	読書関連イベントや講座などの開催	<ul style="list-style-type: none"> ①図書館に関心を持ってもらい、読書の楽しさを知ってもらうため、各種イベントや講座などを開催します(例えば、「図書館探検ゲーム」、スタンプラリー、シークレット本、絵本ライブなど)。 ②図書館での子ども向け展示や特集コーナーを逐次設け、本への興味を引き出します(例えば、自由研究におすすめの本、課題図書、みんなで楽しむ絵本など)。 ③『こどもの読書週間*』に合わせて読書推進の啓発や催事などを行い読書への関心を促します。 ④子どもに対して影響を与える大人に対しても、本の魅力を伝える「大人向けお話し会(『ストーリーテリング*])」などの講座を開催します。

	取 組	内 容
3	読書活動情報等の発信	<p>①乳幼児の保護者向けに「ちびっこかにかにっ子だより」、幼児向け・小学生向けに「かにかにっ子だより」(2種類)、中学生以上向けに「図書館だより」を定期的に発行し、行事やおすすめ本などを紹介していきます。</p> <p>②図書館のホームページや「すぐメールかにか」などで、新刊本や催事など子ども向けの情報を含め適時発信していきます。</p> <p>③状況に合わせて紙のチラシやSNSなどの情報媒体を使い分け、子どもやその保護者などに効果的な情報発信を進めます。</p>
4	「かにかにっ子タイム」、「ちびっこかにかにっ子タイム」の充実	<p>①図書館の本館・分館において、絵本に親しむ機会を提供するためボランティアによる読み聞かせ会「かにかにっ子タイム」、「ちびっこかにかにっ子タイム」、『わらべうたで遊びましょう*』を魅力的な会となるよう改善を加えながら定期的に開催します。また、そのPRにも力を入れていきます。</p> <p>②「ちびっこかにかにっ子タイム」では、単に読み聞かせだけではなく、保護者が参考になる読み聞かせのやり方や対象年齢に適した絵本を紹介します。</p>
5	「パック詰めサービス」等の提供	<p>①「パック詰めサービス」については、学校や関係機関の要望を聞き、パック内容及び種類の充実を図ります。</p> <p>②「気軽に使える絵本パック詰めサービス」については、現在好評なことから、引き続き利用施設の意見を聞き改善しながら提供を続けます。また、新たな提供先(障がい児の通所施設等)への展開も視野に入れ、関係者と相談しながら進めます。</p>
6	図書館職員及びボランティアの派遣による読書活動の推進	<p>①乳児期から絵本による親子のふれあいを創出するため、毎月実施される保健センターでの乳児健診の際に「赤ちゃん絵本事業」を実施します。</p> <p>②市が行う「生涯学習 楽・学講座」を通じて各種団体に対して、絵本の魅力や対象年齢にあわせておすすめ本の紹介などを行う「年齢別ブックトーク(本の紹介)」講座を職員が出向いて行います。</p> <p>③各機関との連携により図書館職員や読み聞かせボランティアを派遣し読み聞かせなどを行います。</p>

	取 組	内 容
7	ボランティア（ブックサポーター含む）の育成と支援	<p>①市民を対象とした読み聞かせ養成講座を開催し、家庭での読み聞かせのコツを学習してもらうとともに、ボランティアとして図書館等で行われる読み聞かせに参加協力してもらう人材を養成します。</p> <p>②既に読み聞かせを行っている各機関（幼稚園・保育園、学校等）の職員やボランティアを対象に、さらに読み聞かせの技術を向上させる講座を開催します。</p> <p>③図書館等読み聞かせボランティアの情報交換の場として、ボランティア交流会を開催し、課題解決や技術向上と連携・協力体制の構築をめざします。</p>
8	障がい児や外国籍の子ども向けの図書の充実	<p>①特別なニーズのある子どもたちのために設置した「りんごの棚」に置く点字絵本、児童向け大活字本、LLブックなどの充実を図ります。</p> <p>②外国籍の子どもに向けた多言語の図書の充実を図ります。</p> <p>③特別支援コーディネーターや国際教室担当者等各関係機関の方と連携を強化し、選書のアドバイスをもらいながら適切な各種図書を整備・PRし、対象の子どもたちの利用を促します。</p>
9	電子書籍の導入及びデジタル化の推進	<p>①スマートフォンの普及や GIGA スクール構想によりタブレット端末を利用した授業が行われるなど、急速なデジタル化が進んでいます。図書館では、一般市民も利用でき、特に子どもたちの学習にも活用できる電子書籍について、学校などと連携しながら本計画期間中の導入をめざします。</p> <p>②子どもを含めた市民が、図書館を利用する際、より使いやすい図書館システムとなるよう改善すると共にマイナンバーカードの利用についても検討していきます。</p>
10	カニミライブ図書館を活用した読書推進	<p>①カニミライブ図書館では、商業施設の中にあるという立地を生かして生活の導線上に本を置き、また、オリジナル分類による配架により偶発的な本との出会いを仕掛け読書推進を図ります。</p> <p>②『カニミライブ（地域拠点）*』でのイベントや、カニミライブ図書館のこどもひろばでのイベントにより来館者を増やし、親子連れが本を手に取り本と親しむ機会を増やします。</p> <p>③「カニミライブ（地域拠点）」で行うイベントと連携し、図書館として関連した企画・展示などを行い来館者の本への興味を引き出します（例えば、おもちゃ病院開催時に本の読み聞かせを実施、多言語での読み聞かせ会の際に外国の絵本などを展示する等）。</p> <p>④カニミライブ図書館は比較的若い世代の利用者が多いため、SNSによる情報発信をしていきます。</p>

	取 組	内 容
11	関係機関との連携・協力 ・子育て機関 ・小中高等学校 ・岐阜医療科学大学	<p>①子育てに関する関係機関に対し、図書館から積極的に働きかけをし、関係機関と連携して子どもの読書活動を支援していきます。</p> <p>②小中高等学校との連携強化を図り、現在行っているサービスだけでなく、新たな取組ができるよう協議を進めます。</p> <p>③小中高等学校と連携し『ブックトーク*』や『ビブリオバトル*』などの講座を企画し実施していきます。</p> <p>④小学生の図書館見学、中学生の職場体験、高校生等のインターンシップ、ボランティア活動を積極的に受け入れます。</p> <p>⑤『岐阜医療科学大学可児キャンパス図書館との相互協力に関する覚書*』に基づき、大学図書館の本の貸出しや大学生ボランティアによる絵本の読み聞かせ等を実施します。</p>
12	「子どもの読書アンケート」の実施	<p>①現在行っている「子どもの読書アンケート」を引き続き毎年1回は実施し、読書活動に関する状況を確認していきます。合わせて、「子どもの読書アンケート」により子どもたちに意見を聞きながら、子どもたちの視点に立った読書活動の取組を進めていきます。</p> <p>②「子どもの読書アンケート」の内容は、学校等と協議しながらタブレット等による電子回答により進め、結果についても関係機関で共有していきます。</p>

指標名	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
「かにかっ子タイム」参加者数	630人	1,900人
「ちびっこかにかっ子タイム」、「わらべうたで遊ぼう」の参加者数	424人	980人
図書館のボランティア登録団体数	7団体	10団体
図書館のボランティア登録者数(個人)	28人	50人
図書館における障がい児支援本蔵書冊数	340冊	500冊
図書館における外国語絵本蔵書冊数	920冊	1,000冊
図書館における中・高生の貸出冊数	10,258冊	13,000冊
司書職員派遣(楽学講座)回数	20回	20回

用語集

あ行

『赤ちゃんと絵本事業』

保健センターで行われる4カ月健診に合わせて、図書館職員とブックサポーターで、絵本の紹介、図書館の利用案内、貸出を行う事業。

『朝読書』

小・中・高等学校において、読書を習慣づける目的で始業時間前に全校生徒が一斉に読書を行うこと。

『うちどく（家読）10運動』

本をコミュニケーションツールとして家族で本を読み、読んだ本で話し合いをしようという取組で、10は、「1カ月に家族合わせて10冊以上の本を読む」、「1年間にひとり10冊以上読む」、「毎日家族で10分間以上本を読む」等、目標を決めて取り組むことを意味している。

『うちどく（家読）10通帳』

読んだ本のタイトルや感想（一言メモ）、本の定価等を記録する通帳型の冊子。50冊分の記入ができ、50冊達成すると図書館が達成証明書を発行するシステムとなっている。

か行

『かにつきタイム』

定期的に小学校低学年までの子と保護者を対象にボランティアによる読み聞かせ等を行う事業。

『かにつきだより』

絵本や児童書の紹介と図書館行事の案内を掲載した幼児向けと小学生向けの2種類のチラシで、関係施設に配布している。

『カニミライブ（地域拠点）』

可児市と株式会社良品計画との共同事業で、様々な課題認識を持つ人たちが目的意識を持って集まり、地域の課題解決や新たなまちの魅力づくりに取り組む活動拠点。（カニミライブ図書館、無印良品の店舗エリアにあるOpen MUJI、ミーティングルーム、ヘルスチェックなどの連携活用エリア全般を指す。）

『気軽に使える絵本パック詰めサービス』

図書館の除籍候補の絵本や紙芝居をパックにして、図書館職員が各幼稚園・保育園、「キッズクラブ」等をローテーションさせて配達するサービス。

『企業主導型保育園』

企業等が、自社の従業員や地域の待機児童解消のために、国から助成を受けて運営している保育施設。

『キッズクラブ』

「学童保育」「放課後児童クラブ」とも呼ばれ、働く親への支援を目的に、児童の放課後の生活と遊びの場として校内の専用施設で児童を保育する。

『絆（きっずな）る〜む』

3歳未満の乳幼児を子育て中の保護者の方々が、安心して遊ばせることができ、保護者同士の交流ができる施設。

『岐阜医療科学大学可児キャンパス図書館との相互協力に関する覚書』

図書相互貸借を始め、情報交換、情報発信、相互交流、連携講演会等を実施する図書館と大学との覚書。
(令和元年7月30日締結)

『子育て健康プラザ マーノ』

可児駅前にある子育て支援・健康づくりのための機能を集約した施設。保健センター、親子サロン「絆（きっずな）る〜む」、中央児童センターなどがある。

『子育てサロン』

地域の主任児童委員、民生児童委員、地域の方々によって運営している「子育てサロン」は、非会員制でいつでも気軽に利用できる、子育てをしている人、これから子育てをする人たちのお友達づくりの場所。

『子どもの読書アンケート』

毎年11月中の家庭での読書実態を把握するため、指定する小学校及び中学校の児童生徒を対象に行う可児市独自のアンケート調査。

『こどもの読書週間』

公益社団法人 読書推進協議会主催。毎年4月23日から5月12日までの約3週間を「こどもの読書週間」とし、子どもの読書推進のため、読書に関する行事を行う。

さ行

『小規模保育園』

定員が6人以上19人以下で、0～2歳児までの乳児・幼児の保育を行う保育所。

『調べ学習』

自分で決めたテーマについて様々な資料から必要な情報を収集し、それをよく読み込んだうえで、自分の考えと結び付けてまとめる学習。

『すぐメールかに』

暮らしに役立つ市政情報の中から希望する情報を携帯電話などに配信するサービス。

『ストーリーテリング』

絵本や紙芝居などを使わず、物語を覚えた上で語り聞かせること。

た行

『団体貸出』

読書グループや学校などの団体に対し、最大200冊、2ヶ月間貸出するサービス。

『地域子育て支援センター』

主に未就園児親子が気軽に遊びに行ける施設で、子育てに関する相談や講座、親子ともに楽しめる行事などに参加できる。可児市には、市直営の絆る〜むの他に、市内5か所の保育園内に整備されている。

『ちびっこかっこ子タイム』

定期的に未就園児とその保護者を対象に、ボランティアによる読み聞かせ等を行う事業。

『ちびっこかっこ子だより』

乳幼児の保護者向けに絵本の紹介と図書館行事の案内を掲載したチラシ。「赤ちゃんと絵本事業」などで配布している。

『図書館探検ゲーム』

子どもの読書推進活動の一環として行われる、可児市立図書館独自のイベント。挑戦するコースによって問題の種類や難易度が異なる。

『図書館祭り』

各小中学校において独自に読書に関するイベントを企画した事業。

『読書週間』

公益社団法人 読書推進協議会主催。毎年10月27日から11月9日までの文化の日を中心にした2週間を「読書週間」とし、読書の普及のため、読書に関する行事を行う。

な行

『日中一時支援』

日中において監護する者がいないため、一時的に見守り等の支援が必要な障がい児等の活動の場を確保する事業（障がい者等の家族の就労支援及び一時的な休息を図る事業）。

は行

『パスファインダー』

特定のテーマについて調べる際に、文献や情報の探し方を1枚のシートにまとめたもの。

『バック詰めサービス』

小中学校等を対象に授業等のテーマに合わせてバック詰めにした本を貸出すサービス。

『パパママ教室』

妊婦とその夫を対象としたこれから親になる夫婦のために、講話や赤ちゃんのお世話の実技を学ぶ教室。

『ビブリオバトル』

複数の発表者が読んで面白いと思った本を各自5分間の持ち時間で紹介する。それぞれの発表の後に、参加者全員でディスカッションを行い、すべての発表が終了した後で、どの本が一番読みたくなったか投票を行い、最も多く票を集めた本がチャンプ本となるゲーム。

『ブックトーク』

あるテーマに沿って、何冊かの様々なジャンルの本を順序だてて紹介すること。聞き手がその本に興味を持ち、読書意欲を起こさせる活動。

『並行読書』

教科書教材の学習中に教材と関連させて本を読むこと。児童・生徒に本と触れる機会を多く与えるとともに、様々なジャンルの本を読むことによって、より多くの知識やものの見方、考え方を身につける側面をもつ。

『放課後等デイサービス』

支援を必要とする就学している子ども（小学生、中学生、高校生）や発達に特性のある子どもが放課後や長期休暇に利用できる福祉サービス。

ま行

『マイナス10カ月』

子育ては子どもが生まれてから始まるのではなく、お腹の中に宿ったとき「マイナス10カ月」からすでに始まっていることに重点を置き、そのときから子どもと子育て家庭が地域・社会とつながり、子育ての大切さを学び、みんなで子育てに関わっていくという市の取組。

『マタニティ教室』

妊婦を対象にした講話や妊婦同士の交流を行う教室。

や行

『ヤングアダルト』

だいたい13歳から19歳の読者層のことをいい、「ヤングアダルト」文学は、児童文学から文学一般へいく中間の位置にある文学。

ら行

『リユース本』

図書館において除籍した本で、市民等に無料で提供する本のことをいう。

『りんごの棚』

心身にハンディキャップを抱えた子どもや、通常に印刷された活字が読みづらい子ども、また、その保護者や支援者向けのバリアフリー関連資料を集めたコーナー。

わ行

『わらべうたで遊びましょう』

0歳から3歳の乳幼児とその保護者を対象にし、ボランティアによるわらべうた遊びや赤ちゃん絵本の読み聞かせ等を行う事業。

資料編

可児市子どもの読書活動推進計画（第4次改訂版）

令和2年度～令和5年度取組実績一覧

評価：各方策の取組について、「できているか」・「できていないか」を表示したものです。

達成 取組ができている。

一部達成 一部取組ができている、または、取組を行っているが目標値が未達成である。

未達成 取組ができていない。

施策：実施状況を見て、第5次計画ではどのようにしていくかを表示したものです。

維持 今後も継続の方向で考えていくものです。

改訂 内容を見直すことによって、今後も取り組んでいくものです。

廃止 取組自体を取りやめるものです。

今後の方針：不足している点を補充したり、新たなものを取り入れたり、方向性を示したものです。

可児市子どもの読書活動推進計画（第4次改訂版）
令和2年度～令和5年度 取組実績一覧

※第4次改訂版（令和5年10月）策定時に修正した目標値を赤字記載し、第4次策定時の目標を（ ）書きで記載しています。

令和6年6月現在

方策4-1 家庭における子どもの読書活動推進										
項目	取組	実施状況	目標項目（●目標値）	令和2年度実績 （3館合計）	令和3年度実績 （3館合計）	令和4年度実績 （3館合計）	令和5年度実績 （4館合計）	評価	施策	今後の方針
1	家庭教育学級、母子保健事業などでの読書のすすめ	○乳幼児学級等に出向き、絵本の紹介や読み聞かせ等、図書館司書による出前講座を実施している。 ○「赤ちゃんと絵本事業」では、保健センターの乳児健診時に、絵本の紹介・図書館の利用案内に加え、令和6年1月からはコロナ感染症予防のため中止していた貸出カードの新規登録の受付および絵本の貸出を再開した。	楽・学講座申込数 （司書派遣回数）	2回	11回	16回	20回	達成	維持	
2	各種情報発信による読書啓発と「うちどく（家読）10運動」の推進	○「かにかっ子だより幼児向け・小学生向け」（月1回）、「ちびっこかにかっ子だより」（年4回）発行。館内と図書館ホームページに掲載している。 ○毎年4月に、市内中学1年生全員を対象に、「うちどく10通帳」及び「うちどく10推薦図書リスト（中学生向け）」を配布している。	うちどく（家読）10通帳発行件数	983冊	1077冊	689冊	797冊	一部達成	維持	読書啓発を促すため情報の発信方法と内容を検討する。
			●うちどく10通帳記入50冊達成件数 目標値 50件	(未集計)	(未集計)	15件	14件			
			●1カ月間の不読率 目標値 小学生 10% 中学生 40%	小学生 21.8% 中学生 40.6%	小学生 28.9% 中学生 44.4%	小学生 30.0% 中学生 46.0%	小学生 27.5% 中学生 43.6%			
			●1カ月間の一人あたりの読書冊数 目標値 小学生 15冊 中学生 8冊	小学生 16.0冊 中学生 5.9冊	小学生 10.0冊 中学生 8.1冊	小学生 9.7冊 中学生 4.7冊	小学生 10.6冊 中学生 3.8冊			
3	マイナス10カ月からつなぐまなぶかわる子育て支援となる読書機会の提供	○「マタニティ教室」及び「パパママ教室」で、これから赤ちゃんを迎える方へ、読書を習慣にする大切さについて啓発を行った。	—	—	—	—	達成	維持		
施策4-2 地域における子どもの読書活動の推進										
項目	取組	実施状況	目標項目（●目標値）	令和2年度実績 （3館合計）	令和3年度実績 （3館合計）	令和4年度実績 （3館合計）	令和5年度実績 （4館合計）	評価	施策	今後の方針
1	図書館のリユース本を活用した図書コーナーの充実	○児童書のリユース本を本館に集約し、公共施設・団体向けリユース事業として希望する公共施設・団体に提供している。	—	—	—	—	—	達成	維持	
2	図書館の団体貸出サービスを活用	○各種団体（キッズクラブ、放課後等デイサービスなど）へ団体貸出しを実施している。	●団体貸出冊数 目標値 10,000冊 (3,000冊)	7,493冊	8,306冊	9,786冊	11,236冊	達成	維持	
3	地域のボランティアによる読み聞かせや催事の実施	○「かにかっ子タイム」「ちびっこかにかっ子タイム」「わらべうたで遊びましょう」など、ボランティアによる定期的な読み聞かせを各館で実施している。	—	—	—	—	—	一部達成	維持	ボランティア養成講座を開催し、読み聞かせボランティアのレベルの向上を図るとともに、新たなボランティアを増やす。

項目	取組	実施状況	目標項目(●目標値)	令和2年度実績 (3館合計)	令和3年度実績 (3館合計)	令和4年度実績 (3館合計)	令和5年度実績 (4館合計)	評価	施策	今後の方針
4	子育て健康プラザ マーノと図書館の連携	○図書館司書の出前講座として、マーンベイクラス(0歳児学級)での絵本の読み聞かせを実施している。	—	—	—	—	—	達成	維持	
5	気軽に使える絵本パック 詰めサービスの実施	○キッズクラブ(毎月1回)と、幼稚園・保育園(3ヶ月に1回)に貸出を行っており、利用施設からは、子ども職員も楽しみにしていると好評を得ている。	●絵本貸出し冊数 目標値 7,000冊 (3,000冊)	5,652冊	2,988冊	6,594冊	7,740冊	達成	維持	
			●施設数 目標値 30カ所 (20カ所)	25カ所	24カ所	25カ所	32カ所			
6	各関係施設と図書館との 連携・協力	○各施設へ図書館行事のお知らせポスター、チラシの設置・配布を依頼している。	—	—	—	—	—	一部達成	維持	関係施設から図書館への要望等を反映させる方法を検討する。

方策4-3 図書館における子どもの読書活動推進

項目	取組	実施状況	目標項目(●目標値)	令和2年度実績 (3館合計)	令和3年度実績 (3館合計)	令和4年度実績 (3館合計)	令和5年度実績 (4館合計)	評価	施策	今後の方針
1	良書の収集・保存と蔵書情報の提供	○児童書、大型絵本、紙芝居などを幅広く選書、活用している。 ○子ども向けバスファインダーの見直しを行っている。	—	—	—	—	—	達成	維持	
2	読書関連イベントと講座の開催	○「夏休みお話しひろば」、「シークレット本」、「図書館探検ゲーム」、「さんしろう絵本ライブ」など子どもたちが図書館や読書に興味をもってもらえるようなイベントを開催している。	図書館探検ゲームの参加人数	264人	207人	446人	713人	一部達成	維持	
3	「こどもの読書週間」の啓発と「かにかっ子だより」などによる読書活動情報の発信	○「こどもの読書週間」に合わせてチラシや掲示物で啓発し、展示を行っている。 ○幼児・小学生向け「かにかっ子だより」と乳幼児とその保護者向け「ちびっこかにかっ子だより」を発行している。	—	—	—	—	—	達成	維持	
4	ホームページや「すぐメールかにか」、その他の配信による啓発	○可児市公式YouTubeにて司書による「可児のむかし話」の読み聞かせなどを配信中。 ○カニミライブ図書館では、Instagramで読み聞かせ情報などを発信している。	—	—	—	—	—	達成	維持	チラシの配布先や、配布方法を検討し、より効果的な情報発信を検討する。
5	「かにかっ子タイム」「ちびっこかにかっ子タイム」の充実	○本館とカニミライブ図書館で幼児から小学生向け読み聞かせ「かにかっ子タイム」を定期的に開催している。 ○本館では「わらべうたで遊びましょう」、分館では「ちびっこかにかっ子タイム」を乳児とその保護者向けに定期的に開催している。	●かにかっ子タイム参加人数 目標値 1,900人	(コロナ禍の影響で中止)	(コロナ禍の影響で中止)	(コロナ禍の影響で中止)	630人	一部達成	改訂	コロナのため開催を中止していた分館の「かにかっ子タイム」を再開するとともに、参加者数を増やす方法を検討する。
			●ちびっこかにかっ子タイム参加人数 目標値 980人	(コロナ禍の影響で中止)	71人	270人	424人			
6	「赤ちゃん絵本事業」「赤ちゃんタイム」など乳幼児の保護者への支援	○保健センター(子育て健康プラザマーノ内)で行う乳児健診に合わせて、絵本の読み聞かせの重要性を啓発している。 ○本館では、「ちびっこかにかっ子タイム」と「赤ちゃんタイム」は、ともにボランティアを十分に集めることができず、開催できなかった。	—	—	—	—	—	達成	維持	

項目	取組	実施状況	目標項目(●目標値)	令和2年度実績 (3館合計)	令和3年度実績 (3館合計)	令和4年度実績 (3館合計)	令和5年度実績 (4館合計)	評価	施策	今後の方針
7	ボランティア(ブックサポーター等)の育成と支援	○出前講座として、ボランティアを対象に読み聞かせの講習を行っている。 ○読み聞かせボランティアの交流会を開催し、意見交換を行っている。	●図書館でのボランティア登録人数 目標値 35人	51人	51人	42人	35人	達成	維持	ボランティア養成講座を開催し、読み聞かせボランティアのレベルの向上を図るとともに、新たなボランティアを増やす。
8	中高生が利用しやすい図書の選書と展示	○ライトノベルなど中高生向けの資料を意識して選書し、テーマを決めて展示や面陳による配架を行っている。 ○中学校職場体験や高校生インターンシップなど職場体験の受入れを行っている。	●中・高生の貸出冊数 目標値 16,000冊	7,703冊	9,040冊	10,535冊	10,258冊	一部達成	改訂	中高生を対象としたイベントや講座を企画、実施する。
9	障がい児や外国籍児童・生徒向け図書の充実	○点字絵本や文字の少ない絵本など障がい児向けのバリアフリー資料を収集した「りんごの棚」を設置している。 ○外国籍の児童・生徒に向けて多言語の図書の充実に努めている。	●障がい児支援本蔵書冊数 目標値 500冊 (120冊)	(+31冊 増冊)	274冊	302冊	340冊	一部達成	維持	図書の充実を図るため、支援学級や外国籍児童教室から必要とする図書の要望(アドバイス)を受ける方法を検討する。
			●外国語絵本蔵書冊数 目標値 1,000冊 (800冊)	(+73冊 増冊)	835冊	847冊	920冊			
10	電子書籍の導入の検討	○令和5年度末時点で、岐阜県および県内9市で電子書籍サービスを開始している。	—	—	—	—	—	一部達成	改訂	5年後の電子書籍の導入を目指す。
11	「バック詰めサービス」と「気軽に使える絵本バック詰めサービス」の提供	○学校等から依頼のあったテーマで本をまとめて貸し出す「バック詰めサービス」を行っている。 ○キッズクラブと幼稚園・保育園に、定期的に「気軽に使える絵本バック詰めサービス」を行っている。	●バック詰めサービス貸出件数 *気軽に使える絵本バック詰めサービス含む *幼稚園・保育園への絵本バック詰め 目標値 50件	41件	28件	38件	44件	一部達成	改訂	学校等からの要望を聞く機会を設け、バックの種類を充実させる。
12	学校等への移動図書館の巡回	○移動図書館の小学校への巡回は、コロナ感染症拡大防止のため令和2年度より中止した。 ○一般の利用者の減少や車両の老朽化等の理由により、令和5年9月の巡回をもって廃止した。	●小学校での貸出し冊数 目標値 10,000冊 *令和5年9月末で事業廃止	(コロナ禍の影響で中止)	(コロナ禍の影響で中止)	(コロナ禍の影響で中止)	事業廃止	—	—	
13	関係機関との連携・協力	○関係団体と図書館だよりやパンフレット等の交換および館内でのPRを行っている。 ○職員による出前講座を実施し、絵本の紹介や図書館の利用方法の説明等を行っている。	—	—	—	—	—	達成	維持	
14	学校との連携	○学校の利用や要望に応じてバック詰めサービスセット内容を更新している。	—	—	—	—	—	一部達成	維持	読書活動推進やバック詰めに関し、学校と協議していく必要がある。
15	岐阜医療科学大学との連携	○岐阜医療科学大学図書館との相互貸借を行っている。 ○かっ子タイムでの学生ボランティア協力について相談している。	—	—	—	—	—	達成	維持	具体的に連携可能な内容について協議していく必要がある。
16	子どもの読書活動に関するアンケートの実施	○毎年12月に指定する小学校4校及び中学校3校の小学校3年生・6年生及び中学2年生を対象にアンケートを実施している。	—	—	—	—	—	達成	維持	

方策4-4 学校における子どもの読書活動推進										
項目	取組	実施状況	目標項目(●目標値)	令和2年度実績 (3館合計)	令和3年度実績 (3館合計)	令和4年度実績 (3館合計)	令和5年度実績 (4館合計)	評価	施策	今後の方針
1	読書習慣の確立と読書指導の充実	○公立小学校すべて(11校)と公立中学校2校で読書活動や授業等に関連した図書の紹介などの特設コーナーを設置している。	—	—	—	—	—	達成	維持	
2	図書館との連携による学校図書館の充実	○学校の利用や要望に応じてバック詰めサービスの内容を更新している。	●バック詰めサービス利用件数 目標値 50件	17件	6件	11件	11件	一部達成	維持	学校等からの要望を聞く機会を設け、バックの種類を充実させる。
3	朝読書や昼読書などの実施	○公立小・中学校でそれぞれのルールを決めて朝読書を実施している。	—	—	—	—	—	達成	維持	
4	ボランティアやPTA・母親委員の協力による読書推進	○ほとんどの公立小学校で、ボランティア団体やPTAの方による読み聞かせを定期敵に開催している。	—	—	—	—	—	達成	維持	
5	読書に関する行事の実施	○ほとんどの小中学校で図書館祭りや読書に親しむためのイベントやお勧めの本の紹介などを実施している。	—	—	—	—	—	達成	維持	
6	学級文庫や特設文庫などの設置と充実	○ほとんどの小中学校に学級文庫あるいは特設文庫が設置されており、図書館の除籍本を活用するなど、定期的な入替をしている。	—	—	—	—	—	達成	維持	
7	学校司書による読書環境づくりの推進	○家庭での親子読書の取り組みを推進している。	—	—	—	—	—	達成	維持	学校司書と図書館司書の情報交換をし、協力して読書環境づくりを推進していく。
方策4-5 幼稚園・保育園における子どもの読書活動推進										
項目	取組	実施状況	目標項目(●目標値)	令和2年度実績 (3館合計)	令和3年度実績 (3館合計)	令和4年度実績 (3館合計)	令和5年度実績 (4館合計)	評価	施策	今後の方針
1	園の本等の充実	○季節や行事に関する絵本や紙芝居、図鑑などを子どもの年齢を意識しながら準備している。 ○園の本だけではなく、可児市図書館の団体貸出や絵本バックを活用して絵本に接する時間を多くしている。 ○迫力があり特別感が出る大型絵本を、お誕生日会の時に図書館で借りて読んでいる。	●幼稚園・保育園の団体貸出利用冊数 目標値 5,000冊 (200冊) ●気軽に使える絵本バック詰めサービス利用施設数 目標値 25施設 (5施設)	1,975冊	3,600冊	3,996冊	4,392冊	一部達成	維持	
2	読み聞かせやお話の時間の充実	○毎日、決まった時間や、子どもたちが求めたときにも、保育士の膝に座ったりしながら個別に絵本を読んだりしている。 ○未満児には、歌や手遊びの絵本なども取り入れている。	—	—	—	—	—	達成	維持	絵本の選択や読み聞かせの方法等に関する講座を開催し、読み聞かせの技術向上を目指す。
3	本を貸し出し、親子で本に親しむ機会づくりの推進	○約半数の園で、子どもたちが好きな絵本を選んで家庭に持ち帰り、親子で絵本を読む時間を設けている。	—	—	—	—	—	達成	維持	

可児市子どもの読書アンケート調査
(市内小学校・中学校児童生徒)

令和2年度 ～ 令和5年度

結 果 報 告 書

1. 調査目的

可児市子どもの読書活動推進計画（第4次）において、図書館における子どもの読書活動の推進に掲げた取組「16. 子どもの読書活動に関するアンケートの実施」を実施し、家庭における子どもの読書実態について、令和2年度から令和5年度の4年間の調査結果をまとめた。

2. 調査対象

可児市内小学校及び中学校から規模・地域性を考慮して、下記のとおり抽出した学校・学年及び学級児童生徒を対象とした。（クラスの抽出については、各小中学校に一任）

- 小学校4校 ⇒ ・春里小学校、今渡南小学校、今渡北小学校、広見小学校
・3年生及び6年生各2クラスまたは3クラス
- 中学校3校 ⇒ ・中部中学校、広陵中学校、東可児中学校
・2年生2クラスまたは3クラス

3. 調査対象期間

該当年度の11月1日から11月30日までの1ヶ月間

4. 調査基準日

該当年度の12月1日

5. 調査方法

- 令和2年度から令和4年度 ⇒ 対象となった各学校を通じて児童・生徒にアンケートを配布・回収し、学校司書がまとめて可児市立図書館へ提出する。
- 令和5年度 ⇒ 対象となった各学校を通じて児童・生徒へオンラインで回答を依頼する。

6. 調査実施人数

◎小学3年生

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
回答児童数	269	276	336	162
市内 児童数	935	929	898	892
割合	28.8%	29.7%	37.4%	18.2%

◎小学6年生

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
回答児童数	209	283	400	249
市内 児童数	928	870	952	932
割合	22.5%	32.5%	42.0%	26.7%

◎中学2年生

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
回答生徒数	207	252	288	220
市内 生徒数	925	870	893	893
割合	22.4%	29.0%	32.3%	24.6%

◎合計（小学3年生＋小学6年生＋中学2年生）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
回答生徒数	685	811	1,024	631
市内 生徒数	2,788	2,669	2,743	2,717
割合	24.6%	30.4%	37.3%	23.2%

質問事項と集計結果

【質問1】 11月中に家で本を読みましたか。（回答は1つ）

【回答】 ①毎日読んだ ②週に4～6日読んだ ③週に1～3日読んだ ④読まなかった

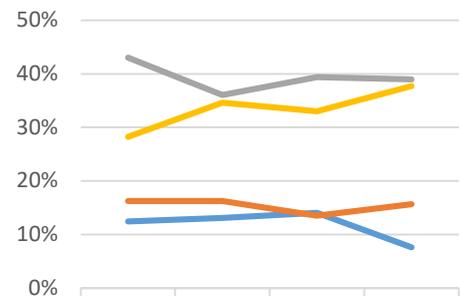
- 小学3年生は、令和2年度以降平均80%の児童が1ヶ月間に読書をしていました。令和2年度以降、読書をした児童が減少傾向にありましたが、令和5年度は読書をした児童が14ポイント増加しました。
- 小学6年生は、令和2年度以降平均66%の児童が1ヶ月間に読書をした結果となりました。平成30年度をピークに年々読書をした児童が減少傾向にあります。
- 中学2年生は、令和2年度以降平均57%の生徒が1ヶ月間に読書をした結果となりました。令和2年度以降読書した生徒は減少傾向にありましたが、令和5年は読書をした生徒が2.4ポイント増加しました。
- 全体では、令和2年度以降平均37%の児童・生徒が1ヶ月間に読書をした結果となりました。年齢が高くなるにつれ、読書をする児童・生徒の割合は減少しており、年度によりばらつきはありますが、全体で約30%の児童・生徒が読書をしていない事がわかります。

読書した日数（小3）



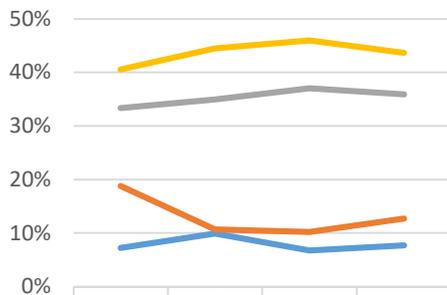
	R2	R3	R4	R5
毎日	21.2%	14.5%	15.9%	22.0%
週4～6日	32.3%	14.5%	32.4%	18.2%
週1～3日	29.7%	47.8%	25.9%	47.8%
読まなかった	16.7%	23.2%	25.9%	11.9%

読書した日数（小6）



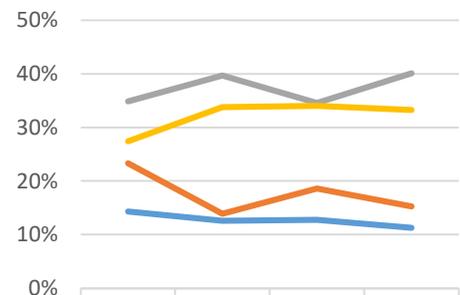
	R2	R3	R4	R5
毎日	12.4%	13.1%	14.0%	7.6%
週4～6日	16.3%	16.3%	13.5%	15.7%
週1～3日	43.1%	36.0%	39.4%	39.0%
読まなかった	28.2%	34.6%	33.0%	37.8%

読書した日数（中2）



	R2	R3	R4	R5
毎日	7.2%	9.9%	6.8%	7.7%
週4～6日	18.8%	10.7%	10.2%	12.7%
週1～3日	33.3%	34.9%	37.0%	35.9%
読まなかった	40.6%	44.4%	46.0%	43.6%

読書した日数（合計）



	R2	R3	R4	R5
毎日	14.3%	12.6%	12.8%	11.3%
週4～6日	23.4%	13.9%	18.6%	15.3%
週1～3日	34.9%	39.7%	34.6%	40.1%
読まなかった	27.4%	33.8%	34.0%	33.3%

【質問2】 質問1で①～③と答えた人は、1日平均の読書時間をお答えください。（回答は1つ）

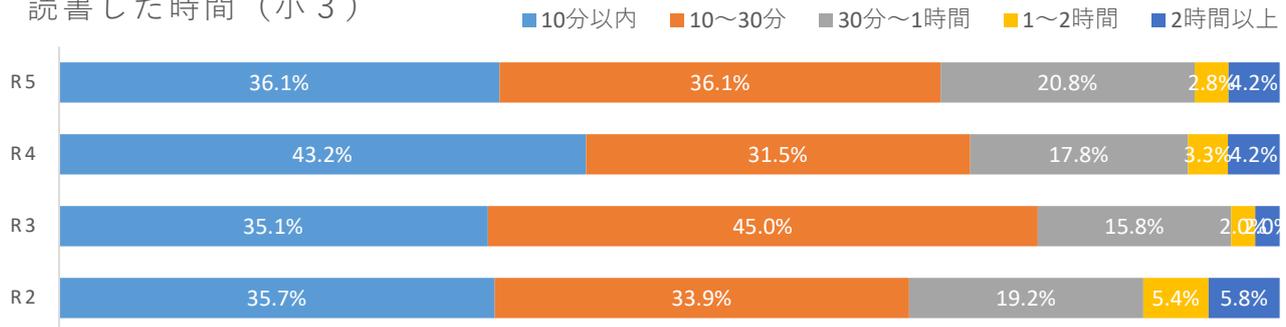
【回答】 ①10分くらいまで ②10分から30分くらい ③30分から1時間くらいまで

④1時間から2時間くらいまで ⑤2時間以上

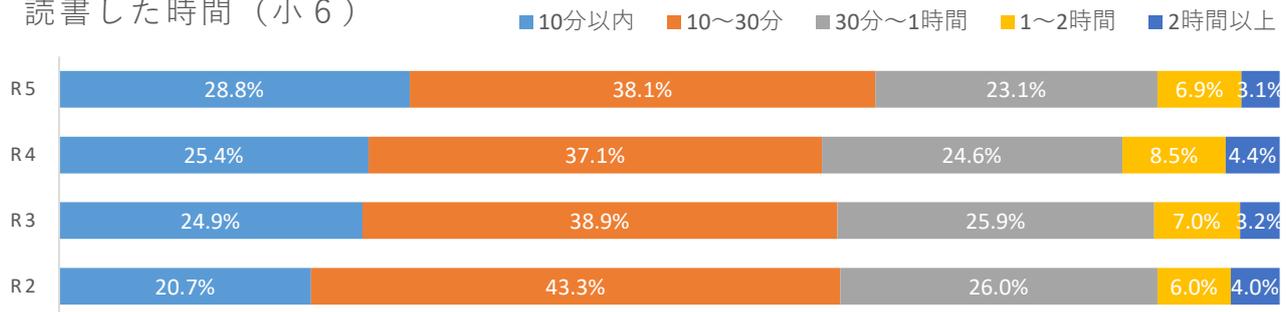
○ 読書にかかる時間は、小学生3年生は10分くらいまたは30分くらいが多く、小学6年生は30分くらい、中学2年生は30分くらいまたは1時間くらいが多く、年齢が高くなるにつれ、読書にかかる時間が長くなっています。

○ また、全体の10%程度の児童・生徒は1時間以上の時間を読書にかけていることがわかります。

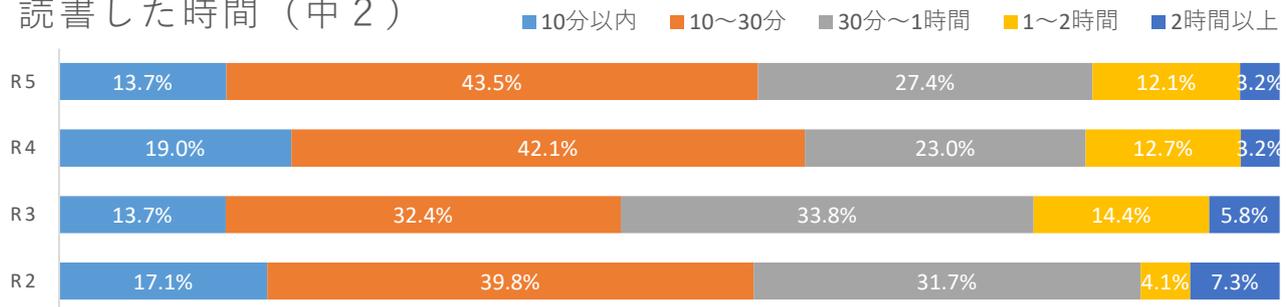
読書した時間（小3）



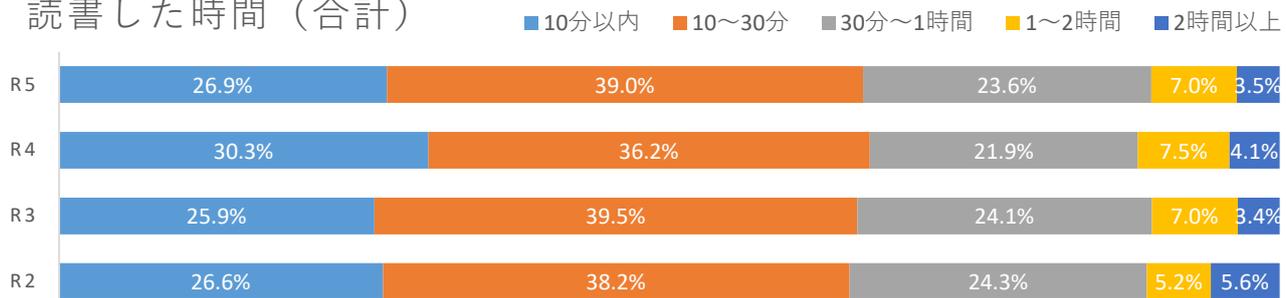
読書した時間（小6）



読書した時間（中2）



読書した時間（合計）



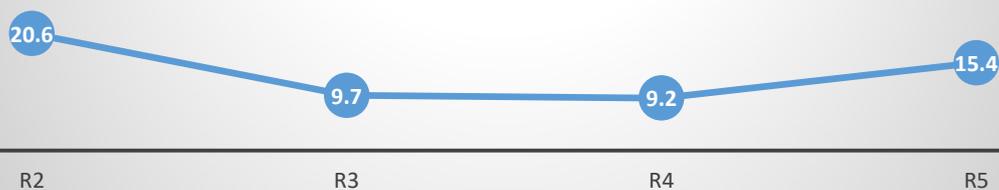
【質問3】 質問1で①～③と答えた人は、家で1ヶ月（11月中）に何冊読みましたか。冊数をお答えください。

【回答】 読書した人の平均冊数

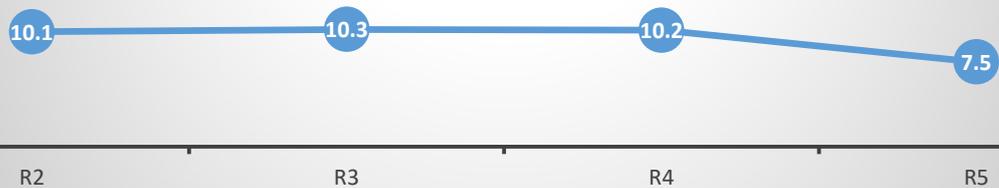
○ 令和2年度以降の読書した人の平均読書冊数は、小学3年生が13.7冊、小学6年生が9.5冊、中学2年生が5.6冊、全体で10.1冊でした。

○ どの年度も、中学2年生の平均読書冊数が一番少ない結果となりました。

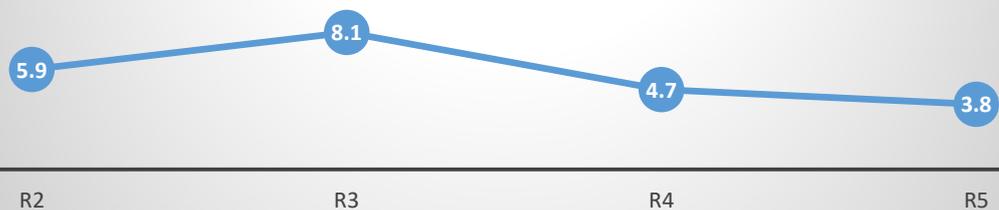
11月中の平均読書冊数（小3）



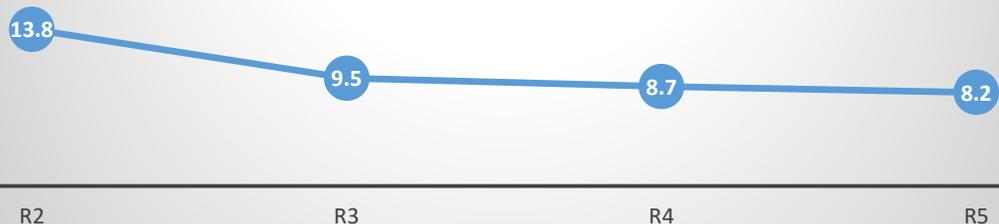
11月中の平均読書冊数（小6）



11月中の平均読書冊数（中2）



11月中の平均読書冊数（合計）



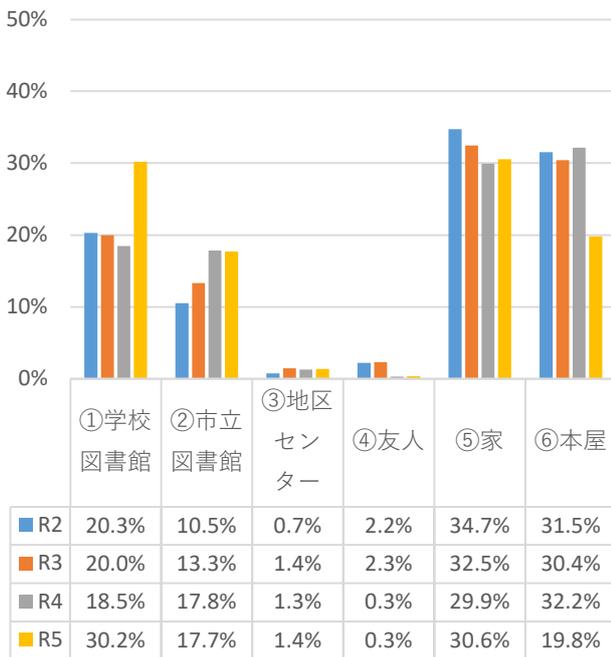
【質問4】 質問1で①～③と答えた人は、本をどこで借りましたか、または買いましたか。（回答はいくつでも）

【回答】 ①学校図書館 ②可児市立図書館 ③近くの地区センター（文庫） ④友達から借りた
⑤家にあった ⑥本屋で買った

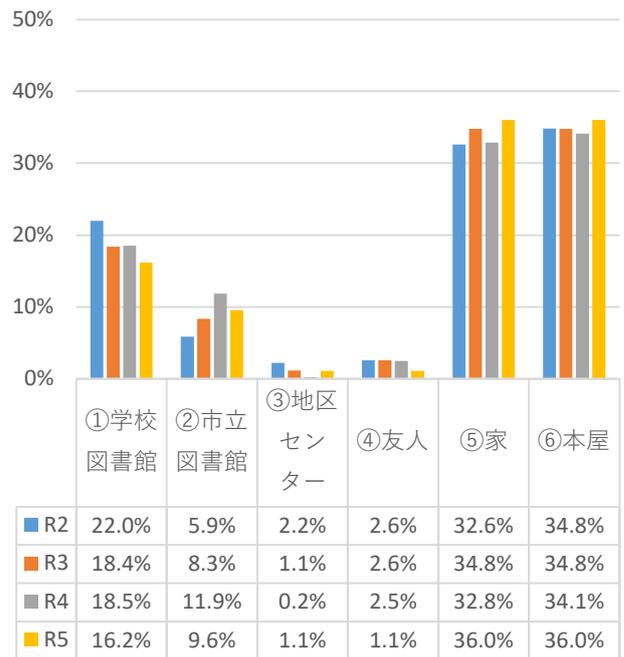
○ 「本をどこで借りましたか、または買いましたか」の設問では、令和2年度以降の全体で多い順に、⑥本屋で買った、⑤家にあった、①学校図書館、②可児市立図書館、④友達から借りた、③近くの地区センターでした。

○ 本を借りて読むより、好きな本を買って読む児童・生徒が多いことがわかります。

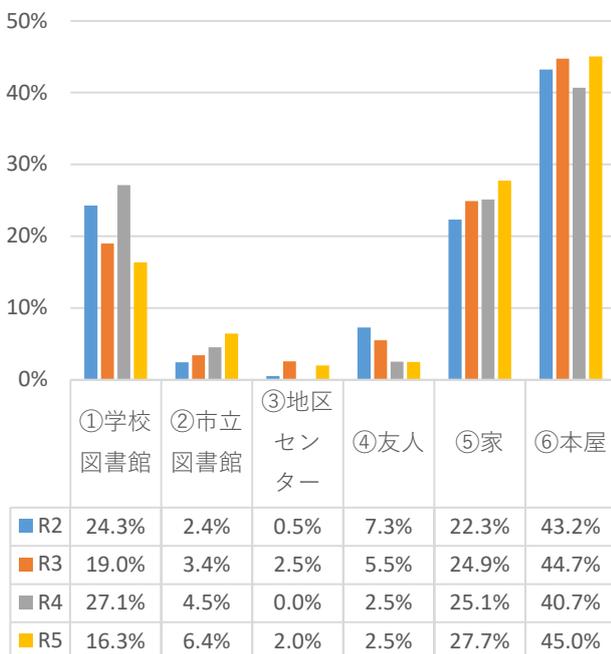
どこで借りました（買った）か（小3）



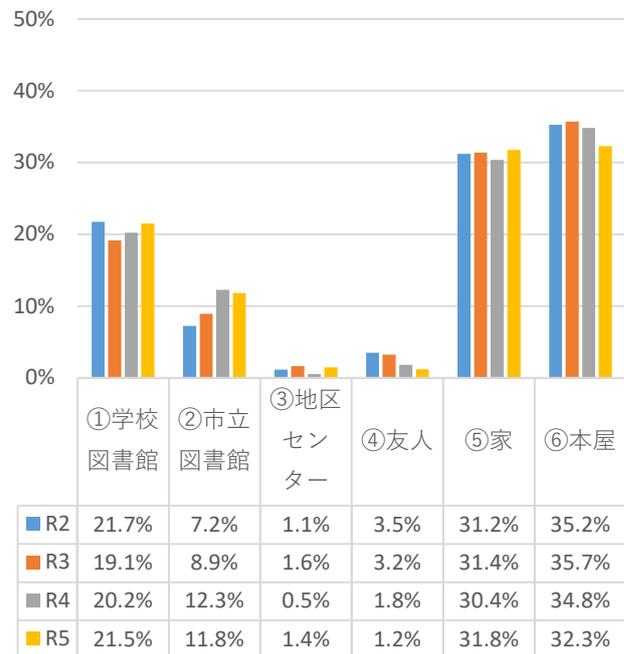
どこで借りました（買った）か（小6）



どこで借りました（買った）か（中2）



どこで借りました（買った）か（合計）

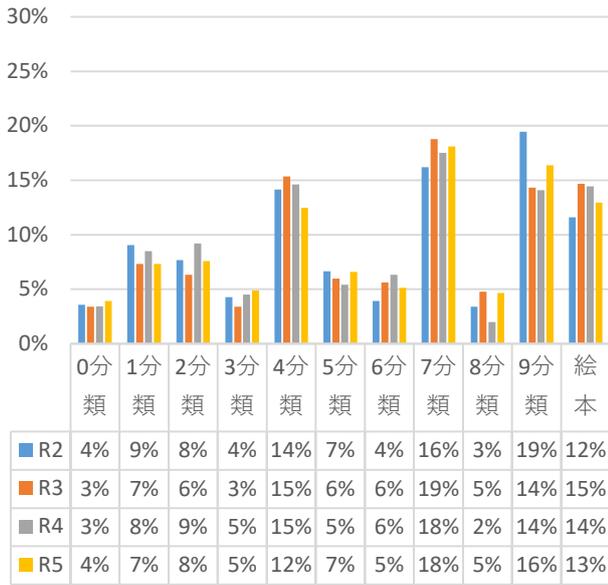


【質問5】 質問1で①～③と答えた人は、どんな分類の本を読みましたか。（回答はいくつでも）

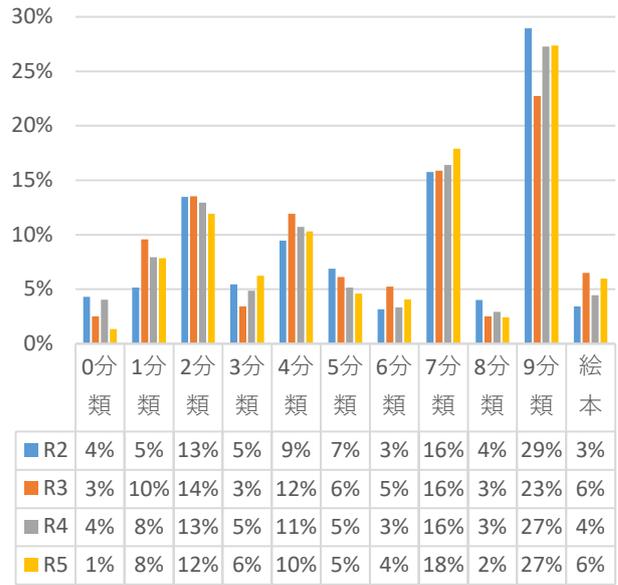
- 【回 答】 ① 1分類（哲学など） ② 2分類（歴史など） ③ 3分類（政治など） ④ 4分類（生物など）
 ⑤ 5分類（乗り物など） ⑥ 6分類（農業など） ⑦ 7分類（スポーツなど）
 ⑧ 8分類（語学など） ⑨ 9分類（小説など） ⑩ 0分類（百科事典など） ⑪ 絵本

○ 全体的に、9分類（小説など）が最も多く、2番目に7分類（スポーツなど）、3番目は4分類（生物など）の順で読まれています。

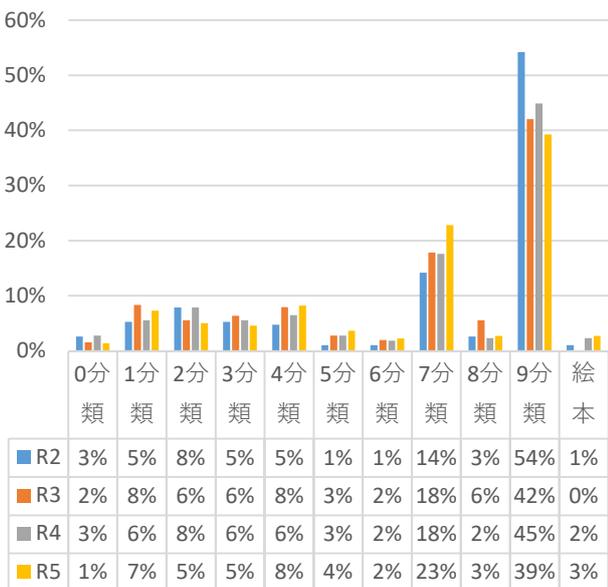
読んだ本の分類（小3）



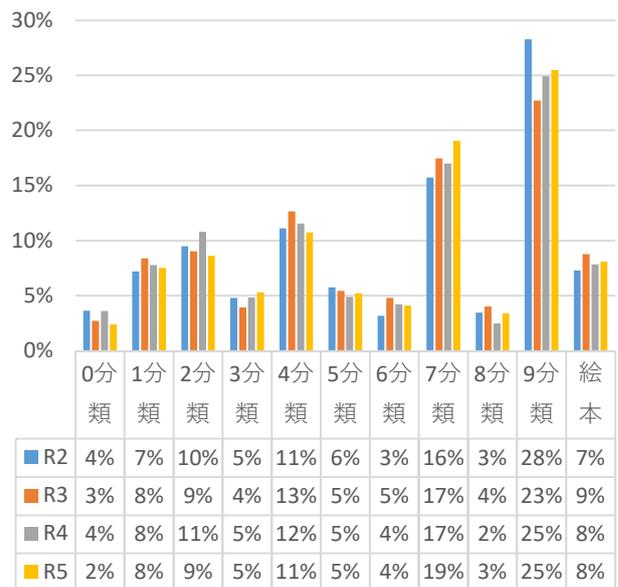
読んだ本の分類（小6）



読んだ本の分類（中2）



読んだ本の分類（合計）

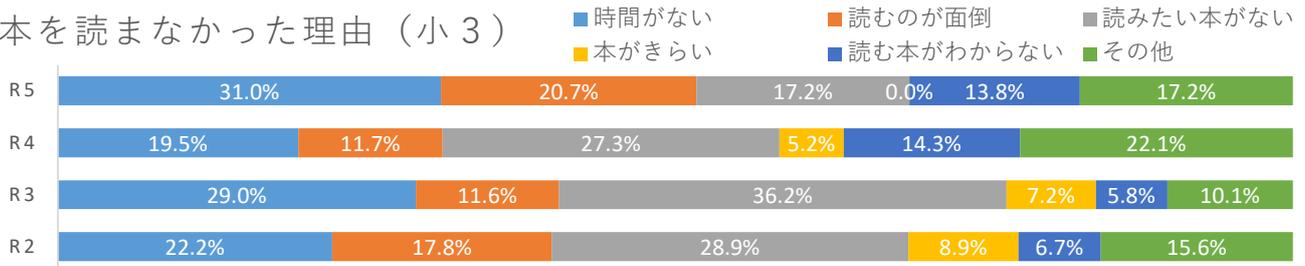


【質問6】 質問1で④読まなかったと答えた人は、その理由をお答えください。

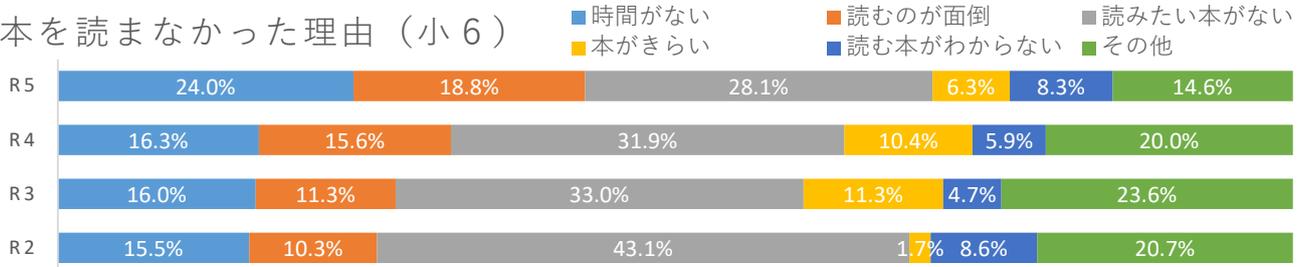
【回 答】 ①読む時間がない ②読むのが面倒だから ③読みたいと思う本がないから
④本がきらいだから ⑤何を読んだらいいかわからないから ⑥その他

- 家であまり本を読まない児童・生徒に理由を聞いた設問では、令和2年度以降全体で最も多いのが③読みたいと思う本がないから（平均33%）、次に①読む時間がない（平均23%）、②読むのが面倒だから（平均17%）という順番になりました。
- 読書の時間を確保するのが難しくなっているのと、本への興味がわからない児童生徒が増えていることがわかります。

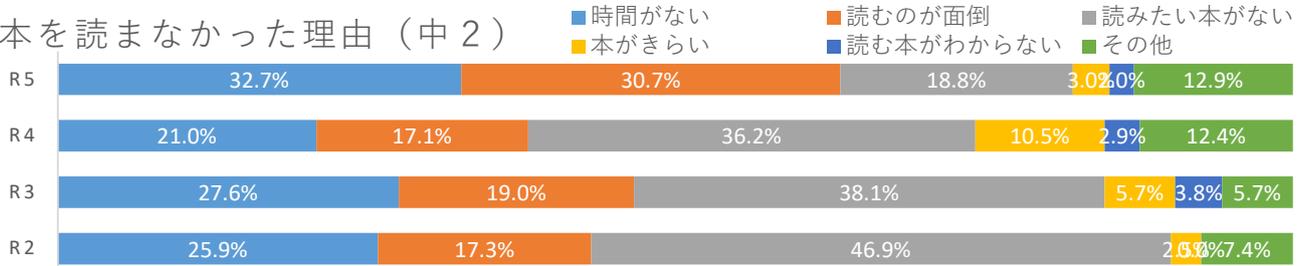
本を読まなかった理由（小3）



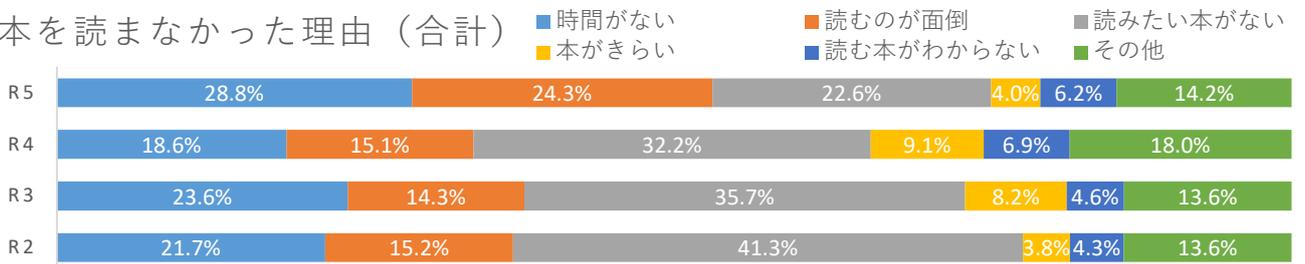
本を読まなかった理由（小6）



本を読まなかった理由（中2）



本を読まなかった理由（合計）



○ 本を読まなかったその他の理由

- 本に興味がないから
- 本以外のことに時間を使っているから
- 家に読む本がなかったから
- 漫画しか読まない
- 学校で読むから家で読もうと思わない
- 本屋などに行く機会がない
- 自分の好きな本を買ってもらえない
- 読みたい本が図書館のどこにあるかわからない
- 集中できないから
- 学校で読むほうが好きだから
- なんとなく
- 雑誌系のみしか読まないから
- 読もうと思わないから
- 家に本を置く場所がない

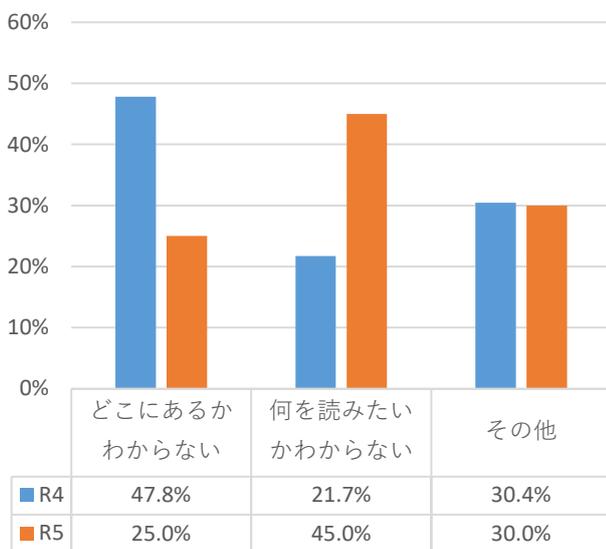
【質問7】 質問6で③読みたいと思う本がないからと答えた人は、その理由はなんですか。

【回答】 ①読みたい本がどこにあるかわからない ②自分が何を読みたいのかわからない ③その他

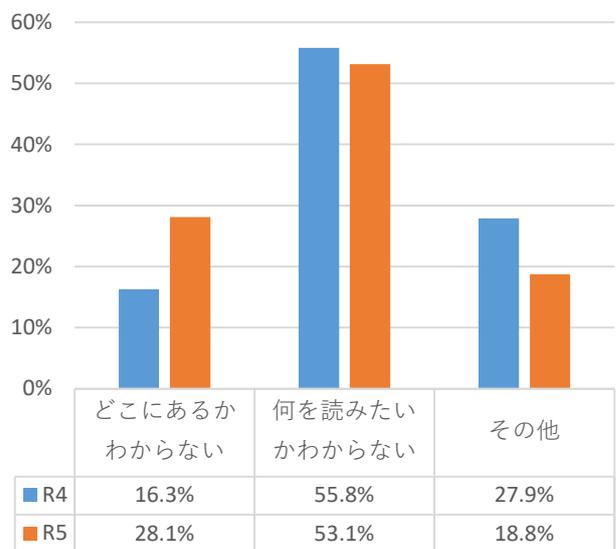
*この設問は令和4年度から開始しました。

- どの学年も7割以上の児童・生徒が「読みたい本がどこにあるかわからない」または「自分が何を読みたいのかわからない」という回答になりました。
- その他では、「漫画が好きだから」「雑誌系を読んでいるから」という意見が多くみられました。また、「家では読まないが学校では読んでいる」という回答もあり、本を全く読まないわけではないため、読みたい本を見つけられるようなきっかけ作りが必要だと考えられます。

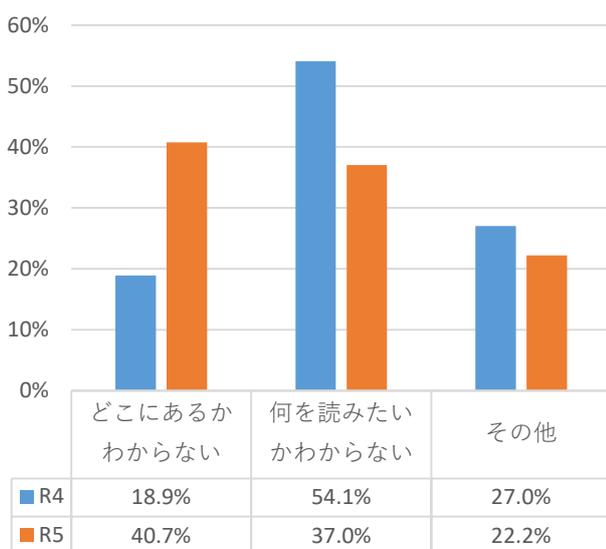
読みたい本がない理由（小3）



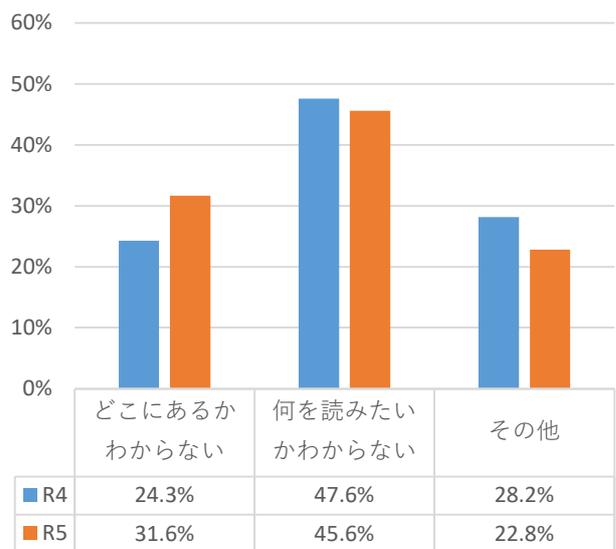
読みたい本がない理由（小6）



読みたい本がない理由（中2）



読みたい本がない理由（合計）



○ 読みたいと思う本がないその他の理由

- ・漫画が好きだから
- ・雑誌系を読んでいるから
- ・ほかにしたいことがあるから
- ・よくわからないから
- ・小説にあまり興味がないから
- ・ゲームのほうが好きだから
- ・学校で読んでいるから
- ・家に本がない

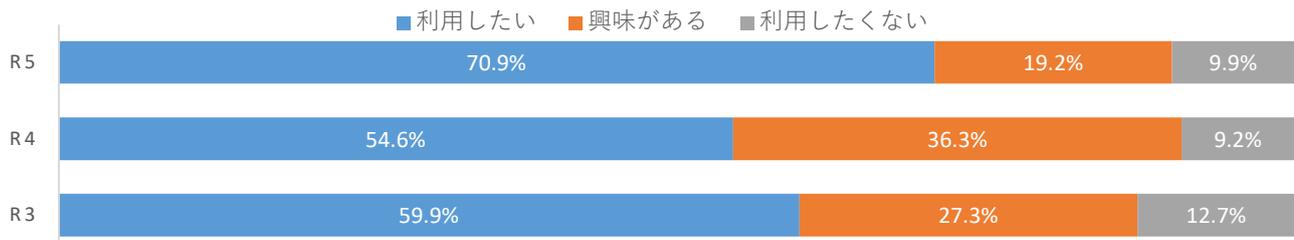
【質問8】自分のスマートフォンやタブレットなどで読める本が図書館で借りられるなら、利用してみたいですか。

【回答】①利用したい ②興味はある ③利用したくない

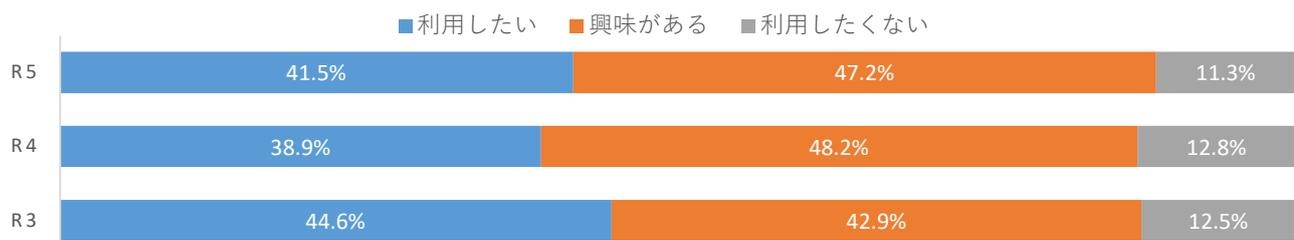
*この設問は令和3年度から開始しました。

○ 令和3年度に調査始めて以降、全体として約9割の児童・生徒が電子書籍に興味があり、利用したいと考えていることがわかります。

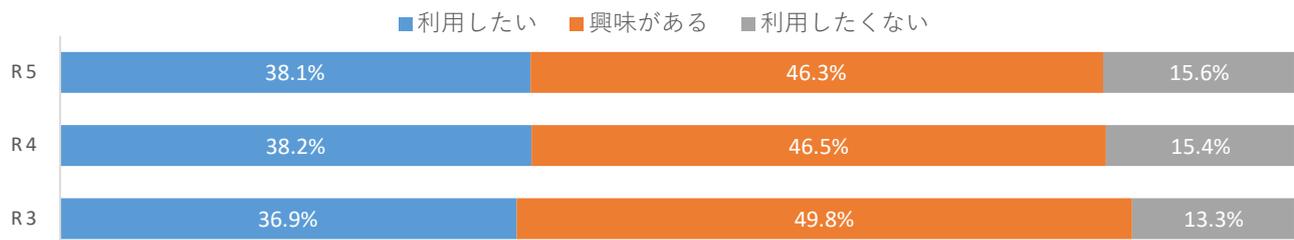
図書館での電子書籍の利用について（小3）



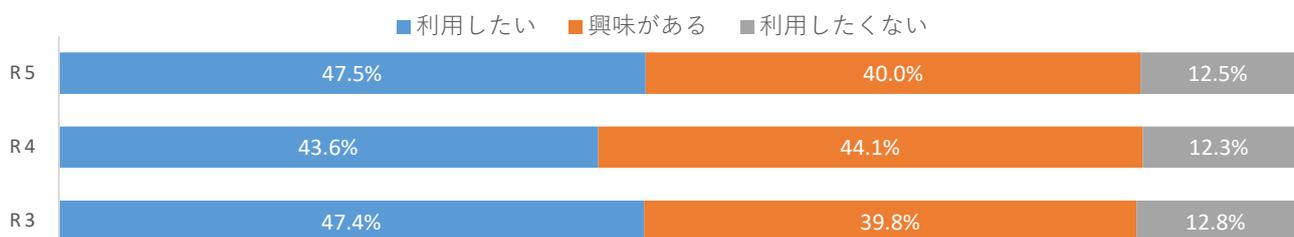
図書館での電子書籍の利用について（小6）



図書館での電子書籍の利用について（中2）



図書館での電子書籍の利用について（合計）



可児市子どもの読書活動推進計画に関する実績アンケート調査まとめ（令和6年3月実施）

【幼稚園・保育園等】

※回答いただいた内容をそのまま掲載しています。

アンケート回収率 21園 65.6%（うち、公立5園 100%、その他16園 59.3%）

施策の現状	具体的な実施内容についてご記入ください
<p>①貴園における絵本の充実について</p> <p>特に力を入れている事項等ありましたら記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算に余裕があるときは、絵本を購入するなどして新しい本を購入している。 ・ 季節や行事に関する絵本や紙芝居、また、満三歳児も楽しめる絵本や年長児が考えながら楽しめる本や図鑑など年齢も意識しながら準備している。 ・ 図書館の団体用の貸し出しや、保育園、幼稚園への巡回貸し出しを利用して、本に接する時間を多くしている。 ・ 季節や行事のもの。又は生活に関連するもの。参加できるものなど、幅広く読みきかせできるようにしている。集中できるし、子どもたちが今興味あるものなど選んで読んでいる。 ・ 園の本だけではなく、可児市図書館や団体貸出サービスを利用しています。また、大型絵本は迫力があり特別感が出るのでお誕生日会の時に図書館で借りている。 ・ 日頃子どもと関わっている担任の声を聞き、子どもが喜びそうな絵本を選んで購入するようにしている。 ・ 子ども達に人気のあるシリーズや図鑑など、傷みが激しかったりする場合は買い直したり、買い足したりしながら常に子ども達が絵本に親しめる環境を整えている。 ・ 森の図書館として様々な本を置いている。 ・ 毎月、各クラスにその季節にあった絵本を購入している。 ・ 子どもの年齢に合った絵本を職員で選び、定期的に購入している。 ・ 未満児に適した絵本を選ぶ 予算内で購入。 ・ 定期的に購入 ・ 市立図書館から貸していただく本を入れ替えていくことで、より多くの本に親しむ環境を整えている。
<p>②読み聞かせの状況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行っている 20園 〔毎日 12園〕 ・ 朝の会の会の始まり時、保育中の待ち時間、午睡前の時間などに子どもたちに読み聞かせを行っている。また、未満児の園なので歌や手遊びの絵本なども取り入れている。 ・ 静と動の切り替わりの時や、子どもが求めてきた時に読んでいる。 ・ こどもたちが集まる時間、朝の会、帰りの会、お昼寝の前、行事の時など。 ・ クラスで担任が読み聞かせる。 ・ 子どもが要求してきたら、個人的に読み聞かせる。 ・ 遅番、早番等で、担当保育士が読み聞かせる。 ・ 朝、バス登園した子たちがクラスに分かれるまでの時間に読み聞かせをする。 ・ 昼食後や活動前など、気持ちを落ち着かせたり、次の活動に見通しを持たせるために読み聞かせる。 ・ 降園前、気持ちを落ち着かせ集中して話が聞けるように。 ・ 生活、活動の中で決まったタイミングで読み聞かせをするほか、自由に遊んでいる時間にも、子どもが保育士の膝に座るなどしながら個別に絵本を読んだりもしています。 ・ 紙芝居や、絵本（家庭から子どもが持ってきた本なども読みます）。活動の合間。 ・ 帰りの会には必ず読み聞かせをしている。 ・ 給食後の戸外遊び前、または帰りの会で読むことが多い。 ・ 活動の節目等で、ゆったりとした時間を持つ際に読み聞かせをしている。

施策の現状	具体的な実施内容についてご記入ください
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼寝前、帰りの会などに実施 ・ 季節にあった絵本、物語、年齢にあった内容のものなど様々なジャンルのものを担任が意図的にえらび子どもたちに読み聞かせている。 <p>〔週6日 2園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お散歩前やおやつ前などに季節に合ったものや子供たちの好きな絵本を選んで読んでいます。また「ひなまつり」「たなばた」などの行事の時には、内容を分かりやすく伝えるために絵本や紙芝居を読み聞かせしている。 ・ 体操後 給食準備中 朝の会 帰りの会 子どもから要求があった時等 ・ 朝の会が終わった後、行事の時読んでいる。 <p>〔週5日 6園〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各クラス一日に2回または1回は読み聞かせを行っている。 ・ なかよしタイム（異年齢でのあそびの時間）に「お話タイム」を設け、担当教師が季節や行事に関する絵本や紙芝居の読み聞かせをしている。 ・ 各教室で、担任が年齢に応じた季節や行事に関する絵本や紙芝居の読み聞かせをしている。 ・ 給食前や、帰りの会で、行っている。 ・ 個人配布用の月刊絵本や幼稚園図書、紙芝居などを、毎日の保育の隙間時間やバスを待つ子どもたちに向けて読み聞かせている。 ・ お帰りの前に紙芝居や絵本を見せている。 <p>・ 未回答 1園</p>
③絵本の貸出について	<p>行っている 9園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年少、年中、年長児は、毎週1回子どもが好きな絵本を選び、貸出を行っている。0,1,2歳児は、毎週1回、保護者ととも絵本を選んでいただき、貸出を行っている。 ・ 「親子読書」として学年ごとに用意した絵本を、毎週金曜日に園児が自分で選んで家庭に持ち帰り、親子で楽しむことをねらいとして実施している。絵本は翌週木曜日に園に返却することとしている。 ・ 保育園の絵本を子どもが選んで借りている。 年長組は随時、読んだ絵本を返した際に新しい絵本を借りていく。 年中・年少組は貸出日（1週間）を決めて絵本を借りたり返したりする。 ・ 貸出絵本カードを作り、週末に担任と園児が図書室で本を選びます。 ・ 水曜日に貸出を行い、翌週月曜日に返却を行っている。 ・ 毎週金曜日に絵本の貸出を行っています。 <p>行っていない 12園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏のお盆期間や冬の正月休み等、長期休みの際に貸し出しをしています。
④図書館への要望について ※図書の団体貸出サービスや絵本の読み聞かせボランティアの派遣、職員研修の講師派遣等、図書館への要望がありましたら記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きい絵本の貸し出しがあると子供たちへの読み聞かせに活用できるかと思っている。 ・ 現在可児市図書館からの絵本・紙芝居の貸出サービスを利用させていただいていますが、幼稚園にない内容のものがほとんどなので子どもたちも新鮮な気持ちで見ることができ、とても楽しみにしています。また、学期に1回読み聞かせボランティアさんに来園していただき年長組の子どもたちにストーリーリングの時間を設けて楽しませていただいている。絵本離れやデジタル画像に頼りがちな現代ですが、少しでも絵本に親しむ機会が増えるよう、これからも利用させていただきたい。 ・ 未満児の保育園、絵本大好きで特にだるまさんシリーズがお気に入り。絵本読み聞かせの方が来ていただけると嬉しい。

施策の現状	具体的な実施内容についてご記入ください
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、団体貸し出しサービスを活用させていただきたい。 ・貸出サービスがあり大変助かっている。今後も継続してほしい。 ・機会があったら読み聞かせのボランティアをお願いできればと思う。 ・「気軽に使える絵本バック詰めサービス」を来年度初めて利用させていただくため、どのような内容の本が届くか楽しみにしている。 ・図書館の本のバック詰めサービスを利用させていただいているが、大型絵本や、パネルシアター、エプロンシアターなど希望すればそちらも一緒に貸していただけるようになるとありがたい。 ・現在は大丈夫だが、今後職員から希望が出たらお願いしたい。 ・読み聞かせボランティアがあればうれしい。 ・絵本の新刊情報を図書館で一覧として配布して下さると参考になる。また、乳幼児向けの大型絵本をさらに充実して頂けると嬉しい。 ・職員の方や読み聞かせのことをよくわかっていらっしゃる方に読み聞かせを行ってもらい、保育士がそれをみて、より良い読み聞かせ方を学ぶ機会がほしい。 ・お薦めの絵本などがありましたら、情報を提供して頂けるとありがたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDなど子どもたちの教育に関するものがあると嬉しい。 ・小規模保育園なのでたくさん本を常時置くことが難しいが、本の貸し出し利用は、定期的に本が入れ替わり子どもも職員も楽しみにしている。新たな本の発見も出来て嬉しい。 ・毎月、絵本を貸していただき感謝している。季節ものや行事の絵本も入れていただけるとありがたい。

可児市子どもの読書活動推進計画に関する実績アンケート調査まとめ（令和6年3月実施）

【公立小学校・公立中学校】

アンケート回収率 公立小学校 11校（100%） 公立中学校 5校（100%）

施策の現状	回 答	小学校	中学校
① 読書習慣の確立と読書指導の充実・授業に関連した図書の紹介など図書室内に特設コーナーの設置	設置している	11校（100%）	2校（40%）
	設置していない	0校（0%）	3校（60%）
② 朝読書や昼読書などの実施について	朝の時間に実施	11校（100%）	4校（80%）
	朝の時間以外に実施	0校（0%）	0校（0%）
	未実施	0校（0%）	1校（20%）
③ 読み聞かせの状況について	週単位で実施	1校（9%）	0校（0%）
	月単位で実施	9校（82%）	0校（0%）
	未実施	1校（9%）	5校（100%）
④ 読み聞かせのボランティアやPTA母親委員の参加	参加がある	10校（91%）	0校（0%）
	参加がない	1校（9%）	5校（100%）
⑤ 読書習慣の実施等図書館のイベント	実施している	11校（100%）	4校（80%）
	実施していない	0校（0%）	1校（20%）
⑥ 学級文庫や特殊文庫などの設置	設置している	10校（91%）	4校（80%）
	設置していない	1校（9%）	1校（20%）
⑦ 保護者への子どもの読書活動啓発等の実施	実施している	5校（45%）	0校（0%）
	実施していない	6校（55%）	5校（100%）

可児市子どもの読書活動推進計画に関する実績アンケート調査まとめ（令和6年3月実施）

【県立高等学校】

アンケート回収率 県立高等学校 2校（100%）

施策の現状	可児工業高等学校	可児高等学校
①蔵書数 （令和5年4月1日現在）	26,047冊	29,061冊
②図書館の蔵書構成	様々な分野の本を所蔵している	様々な分野の本を所蔵している
③生徒の図書館利用率	低い方である	普通である
④課題図書に関する取り組み	実施していない	実施していない
⑤読書感想文の実施	書かせていない	書かせていない
⑥図書館のイベントの実施	実施している	実施している
【具体的な実施内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間に本を借りた人に、以前に図書館前に掲示してあったポスターをプレゼントする。 ・可児工祭（文化祭）に図書委員会として参加。 	<p>年に2時間「読書の日」というLHRの時間がある。本にちなんだ取り組みを各クラスの図書委員が考え、実施している。POP作成、ビブリオバトル、帯の作成、感想交流、クイズ大会など取組内容は多岐にわたる。生徒の自主性を重んじているため、内容は自由としている。</p>

可児市子どもの読書活動推進計画（第5次）策定の経過

日程	会議等
令和6年6月	第4次計画の実績集計
6月21日	第1回委員会 ・第4次計画の実施結果と第5次計画の骨子
8月28日	第2回委員会 ・第5次計画の素案
10月9日	第3回委員会 ・第5次計画の完成案
令和7年 1月 ●日～●日	パブリックコメントの実施

令和6年度 可児市子どもの読書活動推進委員名簿

(敬称略)

氏 名	役 職
山本 学	可児市立桜ヶ丘小学校長（市立小中学校校長会図書館担当）
中西 竜也	岐阜県立可児工業高等学校長（市内公立高等学校代表）
田島 圭子	帷子第2幼稚園園長（市内幼稚園教育協議会代表）
成 順月	岐阜医療科学大学教授（岐阜医療科学大学図書館長）
可児 政彦	可児市青少年育成推進委員会育成部長
金子 孝司	可児市地区センター連絡協議会代表
堀井 恵	可児市PTA連合会子育て委員代表
前田 三紀	可児市読書サークル協議会会長
栗山 明子	可児市学校司書会代表
三條 陽平	株式会社ORDINARY BOOKS代表 カニミライブ図書館運営アドバイザー

【事務局】

飯田 好晴	市民文化部長
古山 友生	図書館長
宮崎 卓也	分館長（帷子分館・桜ヶ丘分館）
桜井 孝治	分館長（カニミライブ図書館）
熊澤 亜紀	係長
仲宗根 南美	司書

可児市子どもの読書活動推進計画（第5次）

発行年月 令和7年●月

発行 可児市

編集 可児市 市民文化部 図書館

〒509-0214

可児市広見570番地5

電話 0574-62-5120

FAX 0574-62-5303